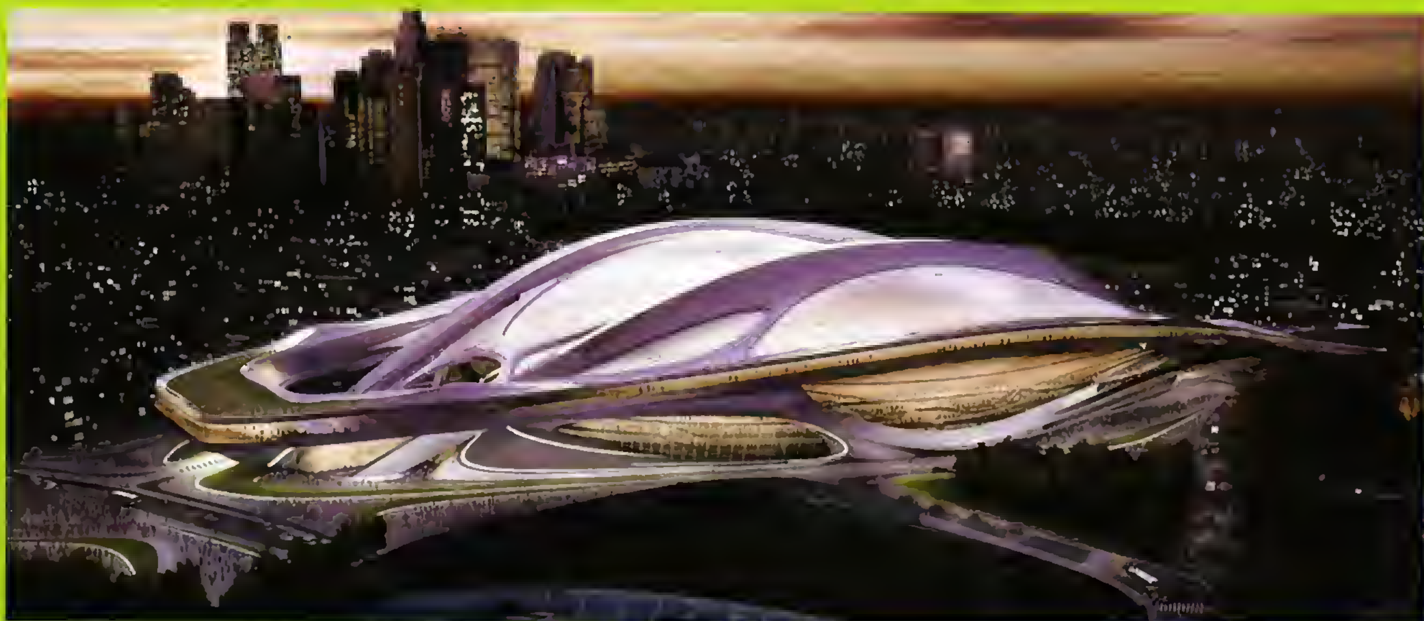
公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年10月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻538号

ハンドボール

10
OCT.2013 No.538

特集
2020年オリンピック・パラリンピック東京開催決定
第64回全日本高校選手権大会
第18回ジャパンオープントーナメント
第26回全国小学生大会



2020年オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場：写真提供・JAPAN SPORT COUNCIL



2020年オリンピック・ハンドボール競技会場予定の代々木第一 体育館：写真提供・JAPAN SPORT COUNCIL

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

2020年オリンピック・パラリンピック夏季大会開催地が東京に決定



公益財団法人 日本ハンドボール協会会長 **渡邊 佳英**

9月7日（土）（現地時間）、アルゼンチン・ブエノスアイレスで開催されたIOC総会において、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定しました。

この招致活動に心血を注いでご尽力頂きました東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、お喜びを申し上げます。

日本ハンドボール協会としても大いなる期待を寄せておりましたことや、東京招致に向け微力ながらお手伝いをさせて頂きましたことから、この喜びはひとしおであります。56年ぶりの開催となる東京大会は我々の悲願でありました。56年前のあの夢のような感動を日本中で味わうことが出来ることを非常に嬉しく思います。

ハンドボール競技の舞台（会場）は、1964年の東京オリンピックのレガシーの中でも象徴的な存在でもあります国立代々木第一体育館です。会場を埋め尽くす観衆の中、日本代表が活躍する姿を想像する時、鳥肌が立つ思いになるのは私だけではないと思います。

日本ハンドボール協会は、強化にベクトルを合わせてオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつけるべく取り組んでおります。そのひとつとして、若年層から代表チームまでの一貫指導を目指したNTS（ナショナルトレーニングシステム）を2000年より実施してきました。これは優秀なアスリートの発掘・育成・強化活動を実施すると共に、指導の一貫性を図ることによる指導者の育成、さらには各地区の地域に最新のハンドボール情報を伝達していくシステムです。

また近年では、ハンドボール選手としての個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育を行うとともに、将来にわたり日本を代表し社会で活躍できる人材の育成を目的としたジュニアアカデミーを新設するなど、アンダーカテゴリーの発掘、育成、強化にも注力して参りました。

アンダーカテゴリーにおいて、男子については8月にハンガリーで開催された第5回男子世界選手権にアンダー世代では28年振りに出場することが出来ました。結果は17位ではありましたが、世界を実際に肌で体験した選手達が今後さらに伸びて行ってくれると確信しております。また女子については、6月にカザフスタンで開催された第12回女子ジュニアアジア選手権、9月にタイで開催された第5回女子ユースアジア選手権に出場し、両大会共に2位となり世界選手権の出場権を獲得することができました。アンダーカテゴリーへの取り組みの効果が、着実に底辺強化につながってきているのだと思っております。

2020年の東京オリンピック、その前に2016年リオデジャネイロのオリンピックがあります。男女共にオリンピックへの出場権を獲得し、その先の東京オリンピックに繋げるよう取組んで参ります。また対象となる世代は、明確な目標が出来たことですから、さらに大きく成長してくれるだろうと確信していますし、競技人口も増え、発展していくものと期待しております。

リオデジャネイロまで3年、東京まで7年。時間はあるようでありません。課題は山積ですが、ひとつひとつクリアし、強い、強い日本代表チームを作り上げていくよう、役員一同結束して取り組んで参ります。

さらに現在、2019年の女子世界選手権を熊本で開催すべく招致活動を推進しております。10月28日ドーハで開催されるIHF（国際ハンドボール連盟）の理事会にてプレゼンし、開催地が決定されますが、こちらも日本で開催されるようラストスパートにかかっております。ぜひ良い結果を皆様とともに味わえることを願っております。

2020年の東京オリンピックは、日本ハンドボール界のみならず日本のスポーツ界また経済や文化などへの波及効果は計り知れないものであります。皆様の期待に応えられるように公益財団法人日本ハンドボール協会として努力して参りますのでご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

夢のまた夢の実現

（公財）日本ハンドボール協会副会長　市原 則之

2013年9月7日午後5時20分ブエノスアイレスでのIOC総会、ジャック・ロゲ会長が手にするボードが返され「TOKYO 2020」とオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定。多くの仲間と歓喜の雄叫びを上げながらこの歴史を刻む運命の時に居合わせた喜びに浸る。同時に「これでハンドボールもオリンピックに出場できる」と一瞬脳裏を過ぎる。

現在男女の代表チームは2016年のリオデジャネイロオリンピックに出場すべく強化関係者一丸で取り組んでいるところであるが、2020年オリンピックには確実に出場が保証され、男子はソウル以来32年、女子においてはモントリオール以来44年振りである。その間多くのハンドボール関係者がオリンピックに挑みことごとく夢破れて将に半世紀近くの苦節を重ねる。

振り返るに2011年3月11日未曽有の東日本大震災。この時誰もが2020年に東京にオリンピックを持ってこれると予想しただろうか？

日本オリンピック委員会の専務理事職にあった私は、各種大会の自粛を余儀なく受け入れざるを得なかった。

そうした中、同年5月にモロッコ・マラケッシュで開催されたIHF総会で、世界の仲間達が口々に「日本が大変な時によく総会に来れたな」と心配し、加えて2012年ロンドンオリンピックの組織委員会も、日本は選手団を派遣できないだろうと言っていると聞く。

こうした風評は日本の国力を疑われ経済にもブレーキがかかると考え、即マラケッシュからロンドンに飛んで「日本はロンドンに史上最大規模の選手団を送る」と組織委員会に約束する。

それから各競技団体に積極的に強化活動に取り組むよう願い、同時に、国内で開催予定の国際大会も力強く推進させるよう促す。

他方、多くのアスリート達も自発的に被災地に見舞いに赴く。そして被災地の皆さんから逆に力強い激励を受ける。

そして、ロンドンに乗り込んで史上最高38個のメダルを獲得する。

帰国後の8月20日、銀座で50万人の大パレード。‘スポーツの力’がアピールされ国民のオリンピック熱が高まる。

それが引き金となりスポーツ界はもとより、国の力強いバックアップを得て各界一体のオールジャパン体制での招致活動が展開される。

運命の時、9月7日午後5時20分。ブエノスで見事2020年東京を勝ち取る。

さあ、7年後のためにみんなで大きな大きな夢を描こう。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定

（公財）日本ハンドボール協会専務理事　川上 憲太

1964年秋、東京でオリンピックが開かれました。第2次世界大戦に敗れ、すべてを失った廃墟の中から復活した日本の姿を世界に示す大きな出来事でありました。

ギリシャ・アテネのオリンポスの丘で採火された聖火が長い道のりを経て日本に到着し、それが全国津々浦々に若者の手によって運ばれ、最後に東京国立競技場の聖火台に点火され、大会がスタートしました。私は高校2年生、広島でハンドボール選手として毎日泥まみれで練習に励んでいました。広島市内にも聖火がやってきました。市内の各区間を各競技のトップチームがリレーでつなぎました。3年生のキャプテン（故人）が聖火を掲げ、その後ろを部員が五輪の旗をもって伴走しました。その一人が私でした。大会期間中は毎日テレビに釘付けでした。日本選手が堂々の活躍でたくさんのメダルを獲得しました。中でもバレーボール女子の金メダルは感動的でした。2年後に東京の大学に進み、ハンドボールの関東学生リーグで、その駒沢体育館で試合を行った時、テレビで観たその時の会場の興奮が思い出されました。

49年前の東京オリンピック大会にはハンドボール競技は中断され行われませんでした。まさに第2次世界大戦中に行われた1936年ベルリン大会にはハンドボール競技はありました。勿論、11人制であります。その4年後、1940年は戦火激しく中止となった幻の東京大会があった訳です。この東京大会に備えて、大学生中心で出来上がったのが日本初の代表選手団でありました。

日本ハンドボール協会もこれに合わせて設立され、今年75周年を迎えたという訳です。

日本のハンドボール界はミュンヘン大会でハンドボール競技が復活し、代表が出場しましたが、男子はソウル大会、女子はモントリオール大会以来その出場が途絶えています。まさにオリンピック出場は悲願となっており、日本協会が掲げる第一番目の最大目標であることは皆様よくご存知であります。

東京への招致活動が本格化した数年前より、招致に関する様々な角度からの支援活動に国内競技連盟としても渡邊会長、市原副会長、多田副会長を中心にお手伝いを展開して参りました。IOC委員の現地視察の時には関東学生リーグの選手の皆さん300人に動員を頂き、会場視察を盛り上げて頂きました。最後にはスポーツ界は勿論、政界・財界・国民が一体となったチームワークで招致を勝ち取ったことに本当に感動しました。皆様に心から御礼を申し上げると同時に喜びを分かち合いたいと思います。

ここに2020年の東京大会の開催が決定され、開催国枠として必ず男女共に参加できることとなりました。これは今まで辛酸をなめていた予選がなく出場できるということです。

日本ハンドボール界は、これを真摯に受け止め、大きな責任と義務を認識し、強化のスタートを切るということです。まずは2016年リオデジャネイロ大会に必ず出場切符をとることです。そして2020年にむけた中期の強化計画をブラッシュアップし「2020年に史上最強の日本代表」をつくり上げることです。そして、会場となる「国立代々木第一体育館」で1万数千人の大観衆の中、メダルを争う戦いを展開することです。大会中、多くのメダル有力競技と並んでハンドボール競技が東京大会の中で最もエキサイティングな競技として注目されることです。そしてたくさんの感動と興奮を2020年以降に繋げ、ハンドボール競技の普及・発展の起爆剤となるよう全員で努力することです。

はっきりとした目標が出来ました。今日から2020年、真夏の東京の青空に向かって全員で動き出しましょう。

1976, 1980, 1984 オリンピアンとして

（公財）日本ハンドボール協会常務理事　**蒲生 晴明**

1972年ミュンヘンオリンピックにハンドボール競技が選ばれました。アジア予選を突破した日本代表チームが山形県東根工業高校での開会式のデモンストレーションに現れました。18歳の私は「すごいな～！」と「ワクワクドキドキ」し、強烈な『憧れ！』となった瞬間でした。幸運にも東根インターハイで初優勝し、ミュンヘンオリンピック出発前の日本代表チームの合宿にサポート参加する事になり「オリンピックに出場したい！」という『憧れが目標』に変わりました。

翌年に日本代表選手に選ばれて、1976年モントリオールオリンピックが現実の目標になりました。イスラエルでのアジア予選を突破して出場権を獲得した時には、格別な感慨があったのを鮮明に覚えています。そしてモントリオールオリンピックに参加し、世界の強豪国と対等に対戦するためにパフォーマンス向上は勿論ですが、身体造りは人一倍力を入れたことを思い出します。オリンピックは、スポーツの祭典と言われます。開会式に出場した時、陸上競技場メインゲートに差し掛かると競技場内は最高に盛り上がっていて「鳥肌が立つ！」と言う事を初めて経験しました。あの素晴らしい感動感激は一生忘れることはできません。結果は12カ国中9位でしたがオリンピック・世界選手権を通じての男子の最高順位でした。女子は、6カ国中5位、以降出場できていません。

1980年モスクワオリンピックアジア予選は、出場権を獲得した後に中国の国連加盟によって再予選をする事になり、日本で行われ大変苦労したけれども必死で出場権を死守。しかし、ソ連のアフガニスタン侵攻で旧西側諸国がボイコットし日本政府も参加を取りやめた事によって参加辞退しました。誠に残念無念！　悲しい出来事でした。その代表選手が現役を続け次のオリンピックを目指しました。

1984年ロサンゼルスオリンピックアジア予選は、韓国が台頭してきた事によって厳しい闘いでしたが、僅差の勝利で4回連続出場を果たす事ができました。1988年ソウルオリンピックは、アジア予選を韓国に次いで第2位で出場を勝ち取り5大会連続出場し、本大会は11位。この大会を最後にアジア予選突破できなくなりました。

このように数々の必死の闘いの中、現場での並々ならぬ努力でオリンピックと言う栄光を勝取って感動感激勇気を分ち合いました。

2020東京オリンピックでは、日本代表選手イコールオリンピック選手になります。国内競争を勝ち抜いて世界と戦う万全の準備をする事によって長年の夢が叶います。7年後と言ってもすぐにやってくると思います。ベテラン選手達も、キャリアを延長しチャレンジして欲しいですし、何よりも中学生・高校生・大学生たちは、20～28歳と一番適した年齢になって行きます。ぜひとも、今から具体的な目標を掲げて着実にトレーニングをして欲しいと思います。また、若年層の時にやっておかなければならない技術戦術と身体造りは大変重要です。教育指導するコーチ指導者は、国内での大会に勝つ事よりも将来必要である事を優先して現場での指導をして欲しいと思います。中でも、「良く見る！　良く考える！」事は根幹である事を忘れてはなりません！

2020東京オリンピックを起爆剤に、一過性でなくその後も発掘育成強化が継続し発展して行く事が重要であると思います。



1984ロサンゼルス閉会式

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催

2013年9月7日、アルゼンチンのブエノスアイレス開催の第125次IOC総会にて、2020年の第32回夏季オリンピック大会の開催都市に東京が選出された。IOC総会では1回目の投票で東京は決定に必要な過半数に達しなかったものの42票でトップとなり、マドリードとイスタンブールがともに26票で並んだ。この2都市で再び投票を行った結果、マドリードが落選。イスタンブールとの最終投票の結果、東京が60票を獲得し、イスタンブールの36票を大きく上回り2020年夏季五輪開催地に決まった。

大会期間は、オリンピックが2020年7月24日（金）の開会式、8月9日（日）閉会式に、パラリンピックは、8月25日（火）から9月6日（日）までが予定されている。

ハンドボール競技会場は国立代々木競技場に（2020オリンピック、パラリンピック招致委員会立候補ファイルより）

1964年大会のレガシーとして使用される競技会場の一つであり、1964年9月に竣工、2007年8月に改修され、総席数12000席の国立代々木競技場である。



ハンドボールの競技日程（2020オリンピック・パラリンピック招致委員会立候補ファイルより）

オリンピック開会式翌日の2020年7月25日（土）から女子の予選リーグが開始、以降、男女交互の日程で連続10日間に亘り予選リーグを戦う。8月4日（火）には女子・準々決勝、8月5日（水）男子・準々決勝、8月6日（木）女子・準決勝、8月7日（金）男子・準決勝、8月8日（土）女子・3位決定、決勝、8月9日（日）のオリンピック閉会式となるこの日に、男子・3位決定・決勝で全16日間の大会は終了する。大会期間中の練習会場は4箇所準備され、又、前年2019年7・8月には同会場にてテスト・イベントが予定されている。

オリンピックの歴史とハンドボール競技の採用

男子競技が夏季オリンピックの正式種目に採用されたのは1936年のベルリンオリンピックからで、アドルフ・ヒトラーの特別要求によって実現した。その後は、一時期、正式種目から外されるが、1972年のミュンヘンオリンピックから復活し、現在に至っている。一方、女子競技については、1976年のモントリオールオリンピックから正式種目になり、現在に至っている。

日本ハンドボールのオリンピックへの出場歴

日本がオリンピックに出場したのは、男子が1972年ミュンヘンオリンピック、女子が1976年モントリオールオリンピックが最初である。以降、男子は、1976年、1984年、1988年の合計4回出場、女子はその後一度も出場できていない。

オリンピック歴代日本代表選手と成績

オリンピック出場メンバー

1972年	ミュンヘン・オリンピック男子				11位／16チーム	
	監督	竹野　奉昭		コーチ兼ＦＰ	近森　克彦	
	ＧＫ	本田　洋	下里　敏彦			
	ＦＰ	木野　実	飯田　誠行	野田　清	有永　修二	佐々木健一
		氷海　正行	新実　俊夫	中井　武三	早川　清孝	
	日本協会役員		村田　弘			
1976年	モントリオール、オリンピック男子				9位／12チーム	
	監督	竹野　奉昭		コーチ	東　嘉伸	
	ＧＫ	本田　洋	柴田　正章			
	ＦＰ	木野　実	中井　武三	蒲生　晴明	藤中　憲二	松原　光三
		花輪　博	穂積　豊彦	佐藤　要二	佐々木健一	菊池　悟
1976年	モントリオール、オリンピック女子				5位／6チーム	
	監督	井　薫		コーチ	鈴木　義男	
	ＧＫ	和田　祥子	久保　徳子			
	ＦＰ	島田　夏枝	蔵田　照美	山下惠美子	紀野奈々美	松下　仁美
		河田　栄子	加藤美起子	穂積美保子	古佐原ひろ子	小森久里子
1980年	モスクワ、オリンピック男子				不参加	
	監督	竹野　奉昭		コーチ	東　嘉伸	
	ＧＫ	福井　秀人	井藤　英忠	大畑　孝広		
	ＦＰ	津川　昭	穂積　豊彦	大原　真造	斉藤将一郎	斉藤　幸司
		山本　伸二	中本　満明	蒲生　晴明	池ノ上孝司	関　健三
		志賀　良弘				
	※日本は出場権を獲得したものの本大会は不参加					
1984年	ロサンゼルス・オリンピック男子				10位／12チーム	
	監督	市原　則之		コーチ	野田　清	
	ＧＫ	井藤　英忠	大畑　孝広	上村　幸彦		
	ＦＰ	蒲生　晴明	山本　伸二	池ノ上孝司	生駒　靖夫	松井　幸嗣
		中本　満明	西山　清	佐々木信男	関　健三	志賀　良弘
		田口　勝利	高村　誠一			
1988年	ソウル・オリンピック男子				11位／12チーム	
	監督	野田　清		コーチ	津川　昭	
	ＧＫ	井藤　英忠	矢内　浩	橋本　行弘		
	ＦＰ	西山　清	山本　興道	玉村　健次	荷川取義浩	首藤　信一
		高村　誠一	立木　浩二	田口　隆	宮下　和広	奥田　新治
		藤井　泉	山村　敏之			

オリンピック優勝国とアジアの成績

	男子優勝国とアジア参加国の順位		女子優勝国とアジア参加国の順位	
2012年	フランス	韓国 (11)	ノルウェー	韓国 (4)
2008年	フランス	韓国 (8)	ノルウェー	韓国 (3) 中国 (6)
2004年	クロアチア	韓国 (8)	デンマーク	韓国 (2) 中国 (8)
2000年	ロシア	韓国 (9)	デンマーク	韓国 (4)
1996年	クロアチア	クェート (12)	デンマーク	韓国 (2) 中国 (5)
1992年	EUN	韓国 (6)	韓国	
1988年	ソビエト連邦	韓国 (2) 日本 (11)	韓国	中国 (6)
1984年	ユーゴスラビア	日本 (10) 韓国 (11)	ユーゴスラビア	韓国 (2) 中国 (3)
1980年	東ドイツ	クウェート (12)	ソビエト連邦	ー
1976年	ソビエト連邦	日本 (9)	ソビエト連邦	日本 (5)
1972年	ユーゴスラビア	日本 (11)		

高松宮記念杯

第64回 全日本高等学校選手権大会

平成25年度全国高等学校総合体育大会

最終順位

【男子】

優　勝：興南（沖縄県）
準優勝：愛知（愛知県）
3　位：県立藤代紫水（茨城県）
　　　　北陸（福井県）

【女子】

優　勝：県立高松商業（香川県）
準優勝：四天王寺（大阪府）
3　位：大分（大分県）
　　　　府立洛北（京都府）

優秀選手

【男子】

黒島　誠（興南）　屋比久浩之（興南）　山川大貴（興南）　宮城　譲（興南）
牛丸裕友（愛知）　加藤優希（愛知）　石川智大（愛知）　今野利彦（藤代紫水）
相澤祐太（藤代紫水）　中野　尚（北陸）　友兼尚也（北陸）　庄子直志（不来方）
西山尚希（香川中央）　木村祐太（桃山学院）　佐藤草太（駿台甲府）

【女子】

谷　華花（高松商業）　馬場敦子（高松商業）　内海菜保（高松商業）
畠山明日香（高松商業）　木村有沙（四天王寺）　藤田明日香（四天王寺）
岩永真由子（四天王寺）　川上ちなみ（大分）　江藤美佳（大分）　片山愛梨（洛北）
岩見佳音（洛北）　西笛里奈（昭和学院）　岩渕いくみ（水海道第二）
芳村優花（星城）　北原佑美（高岡向陵）

総　評

佐賀県高体連ハンドボール専門部委員長　貞島 早苗

高校生のスポーツの祭典「平成25年度全国高等学校総合体育大会 2013未来をつなぐ 北部九州総体」ハンドボール競技が平成19年度以来6年ぶりに佐賀県において開催されました。「吹きわたれ　若人の風　北部九州へ」のスローガンのもと高校生の熱い風が再び佐賀の地に吹き渡りました。

開会式は佐賀市文化会館で代表者のみの参加で行いました。質素な中にも、歓迎のあいさつを行ったサポート校代表の森田夏代神埼高校生徒会長のメッセージなど、おもてなしの気持ちを込めて行いました。

ハンドボール競技は、3市1町にまたがり、6会場で実施されたため競技会場が点在し、また、広域配宿となり選手・役員の皆様方には移動等でご不便をおかけいたしました。しかし、試合そのものは選手・監督・役員のご協力により、無事男女決勝戦まで94試合が終了しました。その中でも、2会場は空調がなく熱中症等の心配もありましたが、各チームのご協力で大きなけがもなく進めることができました。

さて試合のほうですが、男子は興南高校（沖縄県）が4年ぶり5度目の優勝を飾りました。興南は前半から高いディフェンスからの速攻で得点を重ね、5点リードで前半を終了しました。後半、初優勝を狙う愛知高校も粘り強いディフェンスから速攻で追い上げ、残り5分で同点とし、会場も一段とヒートアップしていきました。残り50秒で興南高校が1点リードし、ゴールキーパーの好セーブもあり、追いすがる愛知高校を振り切り激戦をものにしました。

女子は、春の選抜大会（静岡県）のベスト4のチームが相次いで敗れていく中、高松商業（香川県）がチームの持ち味を生かし勝ち上がって2年連続2度目の優勝を達成しました。決勝戦は互角の戦いを見せましたが、高松商業の堅いディフェンスやGKの活躍で四天王寺（大阪府）に対して終始先手を取る試合展開で優勝を飾りました。

全体的に接戦が多く、タイムアップまで目が離せない好ゲームを繰り広げられたチーム関係者の方々に感謝申し上げます。

地元佐賀県勢は、男子神埼清明（開催地）、女子神埼清明（佐賀県代表）はベスト16に進出しましたが、3回戦では力の差があり、ベスト8には手が届きませんでした。また、男子佐賀清和（佐賀県代表）も一回戦で1点差で敗れました。昨年ベスト8に残ってくれていたので残念な結果になりました。女子佐賀清和（開催地）は初出場ながら1回戦を見事突破し、2回戦では春の選抜大会優勝校に善戦しましたが、2回戦で姿を消しました。地元が最終戦まで残るような大会になればまた違ったものになっていたのではないかと思います。

来年の全国高校総体南関東ブロックでのハンドボール競技は神奈川県で開催されます。今年以上の熱戦を期待します。

また、開・閉会式には、（公財）日本ハンドボール協会の川上専務理事にもご出席いただきありがとうございました。

最後に8月4日に本大会は無事終了いたしました。人も物もいろいろなものが厳しいところからのスタートで不安ばかりが募る毎日でした。しかし、最後はやはり人の力の偉大さを感じることができました。各方面より本大会を支え、ご協力いただきました実行委員会・役員・補助員・ハンドボール関係者・保護者・選手・監督のすべての皆様方に心より感謝申し上げ、総評といたします。



【全て写真提供：スポーツイベント社】

男子優勝 興南高等学校（沖縄県）

興南高等学校ハンドボール部主将　黒島　誠

平成25年7月30日から8月4日まで佐賀県で行われた全日本高等学校ハンドボール選手権大会で4年ぶり5回目の優勝をすることができました。昨年、私が2年生の時に決勝戦で岩国工業高校に負けたるという悔しい思いをしたので、優勝できたことを大変嬉しく思っています。

今年のチームは、平均身長が低いチームでした。身長が低い分、走れて、メンバーを入れ替えても戦力が変わらないチームを目指して練習をしてきました。また、絶対的なエースがいないので、「みんなで点を取る」という意識をもって練習に打ち込んできました。

本年3月の全国高等学校ハンドボール選抜大会に出場しました。新チームでの初めての全国大会ということで、緊張感もあり、どれだけできるか楽しみにしていましたが、3回戦で北陸高校と対戦し、完敗しました。沖縄に帰り、自分たちチームを見つめ直しました。そして自分たちのチームは他のチームとちがってメンタル面が弱いと感じました。そこで、メンタルトレーニングを取り入れることになり、改めてチームの弱点を知ることができたことで、練習からチーム内で一人一人がコミュニケーションをとるようになり、チームワークがより一層強くなったと思います。その結果、5月の連休の大分合宿で、常連校が集まっての練習試合で、良い内容の試合ができたことは、とても自信に繋がりました。チーム全体が成長したと感じました。この合宿での課題でありました、シュート確率を上げるためのシュートの練習やディフェンスの強化、セットオフェンスの強化、走り込みなどの練習を皆で乗り越えてきました。春の敗戦から、積み重ねてきたものがあったからこそ一人一人が自信を持てるようになりました。その結果が、インターハイ優勝という結果に繋がったと思います。親父である監督を胴上げできたのは一生忘れません。





私は、主将を務めて優勝できたことを大変嬉しく思っています。優勝できたのはチーム全員の「和」を始め、ご指導してくださった監督兼親父、玉城部長、照屋コーチ、メンタルトレーナー宮城先生など、今まで支えてくれた保護者の応援、興南高校ハンドボール部に関わってくれた皆様のお陰だと思っています。本当にありがとうございました。そして、後輩達には今後も目標を高く持ち、その目標を達成できるように邁進して欲しいと思っています。



女子優勝 高松商業高等学校（香川県）

高松商業高等学校ハンドボール部主将　谷　華花

まず初めに、高松宮記念杯第 64 回全国高等学校選手権大会におきましてご支援、ご協力していただきました県体育協会、県高体連専門部をはじめ、大会の開催に尽力いただきました関係各位の皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

新チームになって初めての春の全国大会では初戦敗退という結果で終わってしまいました。昨年の先輩方がインターハイ、国体を制覇し、どこかで自分達もできるんだという気持ちがあったので、やらなければならないことが徹底できず、負けてしまったのだと思います。それからの４ヶ月間は自分達の取り組み方、考え方を見つめ直し練習してきました。また、私たちは他のチームに比べセット OF で点をとることができないため、高松商業のスタイルである「守って走る」を徹底してきました。

今大会では初戦から全員で走りきることができました。毎試合、相手のペースで点の取れない苦しい時間帯がありましたが、今まで練習してきた粘り強く守るということができ、勝利を収めることができました。自分達が取り組んできたことがインターハイで表現できたことを大変嬉しく思います。決勝戦はなかなか得点できず、苦しい時間帯が長く続きましたが、リードした３点をなんとか守りきることができました。新チーム結成時にたてた日本一という目標を達成したとき、今までやってきたことが結果として現れ、本当に嬉しく思いました。





インターハイで連覇を達成できたのは、先輩方がコツコツと伝統を積み重ねてきてくださったおかげだと思っています。また、遠征などに行かせていただき練習試合の相手をしてくださった大学生の方や他県のチームの皆様にも感謝しています。そして、自分達に練習ができる環境を快く与えてくださった株式会社マキタの皆様、高松大学の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

戦　評

【男子】

▼準決勝

興南（沖縄）　36（15－11、21－12）23　藤代紫水（茨城）

試合開始直後から興南・屋比久のミドル、比嘉のポストシュートで２連取。すかさず藤代紫水も康本のカットインで１点目。その後は一進一退の激しい攻防の中、19分藤代紫水・相澤の速攻で８対９とするも、興南はGK山川の好セーブから田里のシュートなどで４連取。前半を15対11、興南リードで折り返す。

後半の先制点は藤代紫水・森永。すかさず興南は屋比久で取り返す。両チームスピーディな攻防の中、興南は高いディフェンスとGK山川の再三の好セーブから得点を重ね、36対23で藤代紫水を振り切り、決勝進出を決めた。

愛知（愛知）　30（14－13、16－16）29　北陸（福井）

両チームとも立ち上がりは互角の戦いとなる。どちらも逆速攻からの素早いパス回しによりシュートを決め、11分過ぎまでで５対５の同点で試合が流れる。北陸は徐々に守りのリズムを良くし、中村の速攻や西片のシュートで11対７とリードする。愛知もセットプレーから石川のミドルシュートや磯田の速攻で追い上げる。愛知が14対13で前半を折り返す。

後半は両チームとも退場者を出すも、よく守りきり、15分過ぎ21対21と同点となる。その後愛知は連続得点で20分過ぎに25対22と逆転する。北陸も粘り残り１分で１点差まで詰めるが、愛知がＧＫを中心に堅い守りを見せ、30対29で接戦を制して決勝へ進出した。

▼決勝

興南（沖縄）　27（18－13、9－13）26　愛知（愛知）

前半立ち上がり興南は３・２・１ディフェンスから逆速攻によりリズムをつかみ８分過ぎに６対２とリードする。愛知もディフェンスから速攻で、石川、三澤らのシュートで追い上げるが、なかなか興南の高いディフェンスが破れず、21分過ぎで８対14とリードを広げられる。その後も興南は堅い守りから、田里、屋比久らの速攻で18対13とし前半を終了する。

後半愛知は、粘り強い守りから速攻で得点して、12分過ぎに２点差まで追い上げる。その後も、一進一退の攻防が続き、残り５分で同点となる。その後残り50秒で興南が１点リードとなり、GK山川のナイスセーブもあり、そのままタイムアップ。興南が４年ぶり５回目の優勝を飾った。興南の攻撃的なディフェンスからの速攻、負けじと愛知の速攻と最後までお互いが持ち味を出し切った決勝戦にふさわしい気迫に満ちた好ゲームであった。



【女子】

▼準決勝

高松商業（香川）　25（13－6、12－7）13　大分（大分）

前半はほぼ互角の立ち上がりから、川上を中心に得点する大分に対して、高松商業が粘りのディフェンスで９分過ぎから３連続速攻で得点し６対３とする。両チームのGKの活躍で一進一退の競り合いが続いたが、18分過ぎから高松商業がコンビプレーや速攻で５連続得点し、13対６で前半を終える。

後半、大分は江藤のロングシュートで対抗しようとするが高松商業の堅いディフェンスを崩せず点差が開いていく。高松商業が粘りのディフェンスから速攻とコンビプレーで得点を重ね、25対13で勝利を収め、決勝進出を決めた。

四天王寺（大阪）　23（10－10、13－10）20　洛北（京都）

四天王寺のスローオフで開始。ほぼ互角の立ち上がりで、洛北のフローター片山、センター杜氏のミドルシュート、ポスト嘉村とのコンビネーションプレーなどで得点を重ねる。一方、四天王寺は藤田・木村の速攻、速いパス回しからのフローター前田・橋本のアウトカットイン、ミドルシュートなどで得点し、10対10の同点で前半終了。

後半、立ち上がりから両チームともに競い合いが続くが、四天王寺が多彩な攻めで残り３分、スカイプレー、速攻で流れをつかみ、23対20で熱戦にピリオドを打ち、決勝戦に駒を進めた。

▼決勝

高松商業（香川）　16（10－9、6－4）13　四天王寺（大阪）

女子決勝は会場の大声援の中、四天王寺のスローオフで試合開始。開始１分過ぎ、四天王寺・宇野のポストシュートで先制すると高松商業も谷（栞）がポストシュートを決め１対１。その後、四天王寺は橋本らで２得点し、３対１とリードするも高松商業は谷（華）らで３得点し、４対３と逆転。すると、四天王寺は藤田の速攻などで３連取し、再逆転。激しい攻防の中、25分過ぎ、高松商業・谷（華）のカットインで９対９。四天王寺は退場者が出てCPが５人に。その間に高松商業・内海が決め10対９。前半は高松商業１点リードで折り返す。

後半は開始早々、高松商業・谷（華）が決め11対９とリードを広げる。四天王寺GK岩永が好セーブを連発し、一進一退の攻防の中、20分過ぎ、高松商業・谷（華）、谷（栞）で２連取し16対13とすると、四天王寺はタイムアウト。26分過ぎ、四天王寺7mTを高松商業GK馬場がこの試合を決定づけるスーパーセーブ。常に先手を取った高松商業が激戦を制し、２年連続２回目の優勝を飾り、歓喜のフィナーレを迎えた。



高松宮記念杯　第64回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

優勝・興南高校（沖縄県）5回目

決勝　興南高校 27 － 26

県立不来方高校（岩　手）
県立法隆寺国際高校（奈　良）
県立呉工業高校（広　島）
県立小松工業高校（石　川）
県立小林秀峰高校（宮　崎）
横浜創学館高校（神奈川）
徳島市立高校（徳　島）
昭和学院高校（千　葉）
興南高校（沖　縄）
県立四日市工業高校（三　重）
聖光学院高校（福　島）
神戸国際大学附属高校（兵　庫）
聖和学園高校（宮　城）
県立藤代紫水高校（茨　城）
県立松江工業高校（島　根）
佐賀清和高校（佐　賀）
県立彦根東高校（滋　賀）
県坂城高校（長　野）
國學院大學栃木高校（栃　木）
函館大学付属有斗高校（北海道）
長崎日本大学高校（長　崎）
高岡向陵高校（富　山）
高山西高校（岐　阜）
県立香川中央高校（香　川）

桃山学院高校（大　阪）
県立柏崎工業高校（新　潟）
都立東大和高校（東　京）
県立松山工業高校（愛　媛）
県立境港総合技術高校（鳥　取）
県立神埼清明高校（開催地）
愛知高校（愛　知）
県立大分雄城台高校（大　分）
県立総社高校（岡　山）
県立北村山高校（山　形）
浦和学院高校（埼　玉）
府立洛北高校（京　都）
県立清水東高校（静　岡）
駿台甲府高校（山　梨）
熊本マリスト学園高校（熊　本）
九州産業大学付属九州産業高校（福　岡）
県立羽後高校（秋　田）
県立高知東工業高校（高　知）
県立紀北農芸高校（和歌山）
県立富岡高校（群　馬）
県立国分高校（鹿児島）
県立青森東高校（青　森）
県立岩国工業高校（山　口）
北陸高校（福　井）



高松宮記念杯　第64回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部

優勝・県立高松商業高校（香川県）2回目

16　13

佼成学園女子高校（東　京）	星城高校（愛　知）
佐賀清和高校（開催地）	県立彦根翔陽高校（滋　賀）
県立巻高校（新　潟）	県立日川高校（山　梨）
県立高松商業高校（香　川）	土佐高校（高　知）
盛岡白百合学園高校（岩　手）	県上田染谷丘高校（長　野）
夙川学院高校（兵　庫）	県立神埼清明高校（佐　賀）
奈良市立一条高校（奈　良）	県立佐世保商業高校（長　崎）
昭和学院高校（千　葉）	北海道札幌月寒高校（北海道）
宮崎学園高校（宮　崎）	府立洛北高校（京　都）
熊本国府高校（熊　本）	県立大曲農業高校（秋　田）
高水高校（山　口）	埼玉栄高校（埼　玉）
県立静岡城北高校（静　岡）	県立米子東高校（鳥　取）
那珂川町立福岡女子商業高校（福　岡）	県立城北高校（徳　島）
清水ヶ丘高校（広　島）	霧島市立国分中央高校（鹿児島）
聖和学園高校（宮　城）	県立福井商業高校（福　井）
県立今治東中等教育学校（愛　媛）	県立青森中央高校（青　森）
県立水海道第二高校（茨　城）	四天王寺高校（大　阪）
小松市立高校（石　川）	県立栃木商業高校（栃　木）
県立玉野光南高校（岡　山）	日本大学山形高校（山　形）
県立和歌山商業高校（和歌山）	県立富岡東高校（群　馬）
大分高校（大　分）	県立四日市四郷高校（三　重）
県立飛騨高山高校（岐　阜）	県立松江南高校（島　根）
川崎市立高津高校（神奈川）	県立那覇西高校（沖　縄）
学法福島高校（福　島）	高岡向陵高校（富　山）

第18回

ジャパンオープンハンドボールトーナメント

最終順位

【男子】
優勝：長崎社中（長崎県）
2位：HONDA（三重県）
3位：HC 岐阜（岐阜県）
4位：香川クラブ（香川県）

【女子】
優勝：香川銀行 T･H（香川県）
2位：ナデシコクラブ（奈良県）
3位：HC 和歌山（和歌山県）
4位：コスモスピッキーズ（大分県）





総　評

長崎県ハンドボール協会理事長　**児玉 浩三郎**

第 69 回国民体育大会（長崎がんばらんば国体 2014）のリハーサル大会として実施した標記大会は、次年度のハンドボール競技開催地である佐世保市内「佐世保市東部スポーツ広場体育館（仮称）」「長崎県立佐世保西高等学校体育館」「海上自衛隊平瀬体育館」「海上自衛隊佐世保教育隊体育館」「佐世保市体育文化館」の５会場で開催された。

大会は、各ブロック予選を勝ち上がってきた男子 32 チーム･女子 16 チーム（東北ブロック不参加）が熱戦を繰り広げた。男女とも１回戦より白熱した試合が展開され、地元の来場者にハンドボール競技の楽しさを十分に味わわせてくれた。

男子では、ベスト８に九州勢が４チーム残り、大会を更に盛り上げてくれた。男子３位決定戦は、「HC 岐阜」対「香川クラブ」の対戦となった。ゲーム開始は 10 対２で香川クラブのリードだったが、前半終了あたりから流れを引き寄せた HC 岐阜が後半に逆転し、リードを守り切って２年連続の３位を死守した。

男子決勝は、「HONDA」対「長崎社中」の４年連続で同じ顔合わせとなった。HONDA の４連覇か？　長崎社中の初優勝か？　お互いに手の内を知り尽くし、技術も戦術もレベルの高い両チームの対戦は、ファンにとって試合前から胸が高鳴る試合だった。前半は一進一退の攻防が続き、長崎社中が 10 対９の１点リードで折り返した。長崎社中は、地元応援団の声援を受けて、後半は突き放しにかかるが、HONDA も王者のプライドで粘りを見せていた。最後は、長崎社中の身体を張ったデフェンスで HONDA のオフェンスを守り切り、地元で悲願の初優勝を成し遂げた。長崎社中は、全試合で失点を 20 点以下に抑え込んでいたことは特筆に値する。チーム内に大柄な選手が少ない中で、「大柄な相手の攻撃をいかに防ぐか！」ということは、高速化のゲーム展開で点の取り合いになる試合が多い中で、長崎社中の戦いぶりを観戦した中高生の選手たちには、いいディフェンスの手本になったのではないだろうか。

一方の女子は、昨年度ベスト４のチームが、香川銀行Ｔ・Ｈ以外入れ替わるという様相が変化した大会となった。７連覇を狙う香川銀行Ｔ・Ｈにフレッシュなチームがどこまで迫れるか！ということに興味関心が高まった。女子３位決定戦は、「HC 和歌山」対「コスモスピッキーズ（大分）」の対戦となり、2015 年度に国体開催を控えている和歌山県の強化が進んでいることを証明する形で、ＨＣ和歌山が 26 対 18 で勝利を収めた。

女子決勝は、「香川銀行Ｔ・Ｈ」対「ナデシコクラブ（奈良）」の初対戦となった。大学での経験者を多く揃えたナデシコクラブが、香川銀行Ｔ・Ｈにどう立ち向かうか？がゲームの焦点だったが、香川銀行Ｔ・Ｈが終始安定した試合運びで 36 対 26 で、見事に７連覇を達成した。

今回の大会は、北部九州インターハイ空手競技や全国高校総合文化祭も佐世保市開催だった関係上、大会日程がお盆のピーク期と重なりました。移動負担が大きい中、更に例年にも増して猛暑だったこの九州最西端地での大会に、全国各地から参加していただいた各チーム関係者の皆様や来場して熱い声援を送っていただいた各チームのサポーターの皆様には、たいへん感謝申し上げます。最後になりましたが、（公財）日本ハンドボール協会役員の皆様をはじめ、連日の猛暑下で円滑な運営を支えていただいた佐世保市実行委員会・佐世保市民ボランティアの方々・競技補助員の中高生など、多くの方々にお礼申し上げます。大会関係者にお寄せいただいた運営に関する「皆様の貴重な声」を大切に反映させながら、「おもてなし」の心で長崎国体の最終準備を進めていきたいと思います。

男子優勝 長崎社中（長崎県）

悲願の優勝

長崎社中監督　城下 和一郎

来年長崎県佐世保市で開催される「長崎がんばらんば国体2014」に向けた強化策として、長崎社中を結成して4年目となります。過去3年連続でHONDAに決勝戦で敗れ準優勝という悔しい思いをしてきました。「今年こそは地元で優勝するぞ！」という強い気持ちでこの一年間選手・スタッフともに厳しい練習に取り組んできました。特にディフェンスの強化に力を入れ、日々の練習を行ってきました。

今大会は、1回戦から決勝戦までの5試合すべての試合において、失点を20点未満に抑えることができ、練習の成果を十分に発揮することができました。

オフェンスに関しては、以下の3つのポイントに重点を置いて取り組んできました。

①ディフェンスの間隙をねらう。

②バックステップで次の間隙をねらう。

③ボールを受けて、一歩でシュートを狙う。

まだまだ課題は多く残りますが、今大会においては少しずつチームの攻撃スタイルが表現できたと思います。

これまで4大会連続でHONDAと対戦して学んだことは、「成功したオフェンスを繰り返し行うこと」「全力疾走で帰陣し速攻による失点を減らすこと」など「チームで決めたことをゲームの中で徹底して行うこと」の重要性です。これまで3回のHONDAとの対戦を通して、選手もこのことを強く感じることができたと思います。

今大会においては、函工クラブ・HC和歌山・熊本教員クラブ・HC岐阜・HONDAなど、すべてのチームにおいて気を抜ける相手は1チームもありませんでしたが、「自分たちがするべきことを徹底する！」という意識を高く持ち、継続できたことが勝因であると考えます。

最後になりますが、私たち長崎社中を陰ながら支えてくれている家族や職場の方々の理解のもと、今回のジャパンオープンでの初優勝があります。今後ますますの御理解・御協力のほど、よろしくお願いいたします。地元長崎で優勝できたことは、私たちの今後のハンドボール人生において大きな糧になると思います。また、（公財）日本ハンドボール協会役員の皆様をはじめ、猛暑の中で大会を運営していただいた佐世保市実行委員会・長崎県ハンドボール協会の方々や競技補助員の中高生など、多くの方々に誌面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。



女子優勝 香川銀行T・H（香川県）

ジャパンオープン7連覇達成

香川銀行チームハンド副主将　筑後 春香

昨年に比べ年齢層が若くなり、経験の浅い者の方がウエイトを占めるチーム構成となった今年のチームは、『チーム力』というテーマを掲げてスタートしました。

個々の能力がそれほどあるわけではなく、体格が良いわけでもありませんが、チーム全員で組織的に戦うことで日本リーグ勢とも対等に戦えると信じ、練習を重ねてきました。なかでも、「堅守速攻」に磨きをかけるため個々の体力、スピードの中での判断力の強化を重点的に取り組んできました。

今大会、地元長崎県や和歌山県など国体に向けて強化しているチームが多くみられる中、実業団チームとして優勝しなければならないというプレッシャーを背負い、挑んだ1、2回戦は、緊張からか動きが硬く、ミスが目立ってしまいました。準決勝では、従来の動きに戻りつつもDFでのリズムが取れない場面もあり、試合後に「まずDFで自分達のリズムを取って粘り、速攻でしっかり走ることを徹底しよう。他チームには負けないスタミナを大いに発揮していこう」と全員で気合を入れ直し、決勝戦を迎えました。

序盤、DFがうまく機能せずリズムに乗れない時間が続きました。しかし、GKの好セーブに助けられ、速攻などで7連続得点を挙げ、ゲームの流れを掴みます。後半はDFを修



正し、チームカラーである「DFから速攻」で得点を重ね、10点差で勝利を収めました。

7連覇を懸けて挑んだ今大会、今まで積み上げてきた連覇記録を絶やしてはいけない、必ず優勝しなければならないというプレッシャーにも勝ち、最後までチーム全員で戦い抜くことができました。

今大会を通して、まだまだDFの対応力や速攻での判断力が不足していることを感じ、これを課題として、日々の練習をチームで声を掛け合い、厳しさをもって取り組んでいきます。これからの国体や全日本総合選手権で結果を残し、最後に全員が笑えるよう、更なる『チーム力』の向上に努めていきます。

最後になりましたが、香川銀行をはじめ、ハンドボール協会各位、OGや保護者の方々、チームにご支援・ご声援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

これからも、誰からも応援してもらえるチーム、愛されるチームを目指して、香川銀行チームハンドはパワーアップし続けていきます。

戦　評

男　子

■3位決定戦

HC岐阜　30（13－14、17－15）29　香川クラブ

香川クラブは試合開始直後から、サイド攻撃と速攻で宮寄、関らの活躍とHC岐阜の退場等もあり5連続得点でゲームの主導権を握る。その後も、香川クラブはゆったりとしたパス回しから相手の間を狙う動きからサイドやポスト川内を使い得点を重ね、最大8点差をつける。対するHC岐阜は、前半10分過ぎから香川の攻撃に慣れてきたのか、逆速攻や素早いパス回しからの八代・宮崎のロングシュートを多用し得点を重ねる。香川のGK玉城の活躍で流れをものにできずにいたが、前半終了間際に香川クラブに退場者が出ると中里の速攻などで1点差まで詰める猛攻を見せて13対14で折り返す。後半開始2分で追いついた岐阜は、その後も小川の速攻やサイドシュートや八代・宮崎のロングシュートで突き放す。香川クラブは、矢田・大芝らを中心に加点し一進一退が続く。3点差がついた22分に香川クラブがタイムアウト。岐阜の宇野のポストシュートで4点差をつけたが、その後香川が3連取。堪らず27分に岐阜がタイムアウト。このタイムアウトが功を奏しその後香川は加点できず、30対29で岐阜が勝利した。

■決勝戦

長崎社中　25（10－9、15－9）18　HONDA

長崎社中松永の2連続得点でゲームが始まる。お互いに激しいディフェンスでなかなか点が入らない。HONDAは、左右への展開から河瀬のポストシュートと近藤のシュートで加点するが、その後は長崎社中GK吉田の好守に阻まれる。その間長崎社中は、三宅を中心にゲームを組み立て、深江・岩尾・相川らで加点し7対2としたところで、HONDAがタイムアウト。その後、HONDAが盛り返し竹田の活躍で6対8まで点差を縮める。ここで竹田が退場するが好守を見せ長崎社中に点数を与えない。前半は10対9長崎社中リードで折り返す。後半HONDAが続けて退場者を出し、長崎小川の7mスローや相川・松永のシュートで得点を重ねる。HONDAは、竹田や野嶋がシュートを決めるが14分には11対16となりタイムアウト。その後HONDAは3：3ディフェンスで逆転を試みるが、長崎は会場の声援を後押しに引き下がらない。その後は、一進一退の攻防を繰り広げるが、長崎が25対18で初優勝を飾った。

女　子

■3位決定戦

HC和歌山　26（7－7、19－11）18　コスモスビッキーズ

コスモスビッキーズの2連続得点からスタート。HC和歌山も東のポストプレーを軸に攻めるものの、突破口が見つからない。3点差となった時点で和歌山がタイムアウト。立て直しを図る。直後、竹中が速攻からのシュートを決めチーム初得点。再び竹中が速攻で抜け出すが、コスモス花田が横から激しく当たり、2分間退場。ペースをつかんだ和歌山は3連続得点で追いついた。この後は一進一退の攻防が続く。相手のOFのフェイクからの1対1にも慣れてきた和歌山DF。引き気味に守り、ポストを絡めた攻撃を封じるコスモスDF。両チームのDFがうまく機能しはじめてからは、ロースコアの試合展開となった。後半開始直後、村坂のロングが決まり、和歌山が初めてリードを奪う。小川、小崎の速攻が決まりさらに連続得点。3点差になった時点でコスモスタイムアウト。直後に7mスローを得るも、GK木澤の好セーブで和歌山は得点を許さない。コスモス宮本も幾度となく速攻やカットインシュートを好セーブするなどゴールを守り抜いた。その後は速攻をメインに加点していった和歌山が勝利し、3位に輝いた。

■決勝戦

香川銀行T・H　36（19－14、17－12）26　ナデシコクラブ

辻のカットインシュートでナデシコが先制。香川銀行も持ち前の素早いリスタートからの荒木のミドルで得点するなど、決勝戦にふさわしいスピーディーなハンドボールとなった。平良のカットインシュートで3点目を得点した際には、完全にナデシコに流れが傾いていたが、速攻やリスタートをメインに素早い攻撃を展開する香川銀行の攻撃により、荒木、沢井らの得点を重ね、7連続得点。流れは一気に香川銀行ペースに代わっていった。しかしナデシコも西埜が混戦の中で幾度となくポストシュートを決めるなどしぶとくついていく。後半に入っても変わらずスピード溢れる攻撃から得点を重ねる香川銀行。ポストを絡めた展開から得点を重ねるナデシコの一進一退の攻防が続く。香川銀行筑後、藤井が連続得点をし、7点差がついた時点でナデシコがタイムアウト。平良のステップシュートで追いすがるが、香川銀行も素早いリスタートから筑後、中久保、荒木などが得点し、徐々に差が付き始める。香川銀行は最後までスピーディーに運動量豊かなハンドを展開し、見事優勝を果たした。ナデシコも一人一人が連動した組織的なOFで香川銀行を苦しめた。序盤の7連続失点がなければと思いたくなるようなすばらしい戦いぶりであった。

第26回 全国小学生ハンドボール大会



【4点共、写真提供：スポーツイベント社】

最終順位

■男子

優　勝：東海ハンドボールスクール（愛知県）
準優勝：神森小学校ハンドボール部（沖縄県）
３　位：玉名町小学校（熊本県）
４　位：香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブくん（香川県）

■女子

優　勝：玉名町小学校（熊本県）
準優勝：三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎県）
３　位：薪小学校ハンドボールクラブ（京都府）
４　位：日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）

総　評

日本ハンドボール協会小学生専門委員会　山本　繁

8月1日(木)から4日(日)まで、今年も京田辺市において「第26回全国小学生ハンドボール大会」が開催されました。参加都道府県は男子が35、女子が34、東北地方からの参加がなかったのが淋しいところですが、全国各地の小学生チームがハンドボールを通して交流する姿は、清々しいものがあります。レフェリーも日本協会審判部が担当するようになって4年、今年からはすべての試合にTDを配置し、よりクリーンなゲームになるよう大会運営も工夫しました。その成果もあり、よりクリーンで見応えのあるプレーが多くなってきました。

また今年も、開会式の前にNTSのU-12講習会を開催し、今後小学生チームが向かうべきゲーム展開の方向性も示されました。①積極的なディフェンス、②1対1を積極的に抜きに行くオフェンス、③速いゲーム展開、その中でも素早く正確なパスキャッチやシュート。実際、決勝トーナメントに勝ちあがったチームを見ると、これらの基礎基本がしっかり身についていました。

優勝は、男子が東海ハンドボールスクール（愛知県）、女子は玉名町小学校（熊本県）で、共に初優勝でした。

男子優勝 東海ハンドボールスクール（愛知県）

フェニックスファミリーで勝ち取った優勝 東海ハンドボールスクール 濱野 健一



【写真提供：スポーツイベント社】

東海ハンドボールスクール創立15年目。男子は8度目の出場。私自身、監督11年目にして初の全国制覇を達成しました。女子は一足先に3年前に優勝。男子はこれまで、2年前の4位が最高成績でした。今回は「2年前の忘れものを取りに行こう！」そんな思いが、選手とスタッフの共通の目標でした。

東海ハンドボールスクールは、大同特殊鋼ハンドボール部を中心としたフェニックスファミリーの一員です。木曜日の練習日は、大同大学、大同高校が小中学生を指導してくれる家族の様な付き合いをしております。また、年に数回ではありますが、大同特殊鋼ハンドボール部の監督、選手も指導してくれるファミリーです。新チームは、2月末からスタートしました。昨年はチーム作りを急ぎ過ぎ、足元をすくわれた感があった為、今年はしっかり基礎の確認から始めました。最初はつまらない練習も多かったと思います。選手達はそれに一生懸命取り組み、技術を吸収するレベルを備えて行きました。3月の遠征で、これまで固まらなかったDFの技術レベルが一定の品質を発揮できる瞬間がありました。僅か15分1本のゲーム、最初と最後で別のチームの様に変化した事を覚えています。小学生の成長にはいつも驚かされます。これをきっかけに、どんどん技術を吸収してくれる子供達。攻撃はエースを中心としたシンプルを目指し、DFでは4パターンの動作を持ち、相手の特徴に合わせた対応力をつけて行きました。新チーム作りには、中部、関西のチームと交流ゲームを繰り返し、お互いに切磋琢磨できた事が、後のチーム力UPへ大きな影響を与えました。交流を深めさせて頂いたチーム様へ感謝いたします。

大会を通じて、緊張する選手が出るなど、持ち前の攻撃ができない事が多い状態でしたが、DFは大きなミスがなく安定していました。このDFの安定が今回の結果につながったと思います。

大会前には、フェニックスファミリーの応援旗に、大同特殊鋼の選手、大学、高校、中学の選手が応援メッセージを書き、必勝祈願してくれました。実にファミリーが一丸となり勝ち取った優勝なのです。全国制覇を目指し、頑張った子供達と、自分の事の様に真剣に取り組んでくれるコーチ。例年より多い遠征にも、文句も言わず気持ち良く送り出してくれ、大会では日本一のバックアップをしてくれた保護者。フェニックスファミリーの皆様。その他、東海ハンドボールスクールへご尽力頂いている全ての皆様へ心から感謝申し上げます。今後とも、選手・スタッフ・保護者・地域が一体となって頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、素晴らしい大会運営をして頂いた、京田辺市、京都府協会をはじめ、大会運営へ携わった皆様へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



女子優勝 玉名町小学校（熊本県）

人のつながりで成し遂げた全国制覇

玉名町小学校ハンドボール部監督　土田 幸生

第19回大会の女子決勝戦で富山県代表上庄ハンドボールクラブに7MTCで敗退し、選手たちはコートに泣き崩れ、私も選手たちもその保護者も失意のうちに京都を去りました。あれから7年の時を経て、玉名町小学校女子が全国の舞台に戻ることができました。今年は県大会を勝ち抜くことが困難で、ライバルチームとしのぎを削ることで子ども達は力をつけることができました。「県予選で敗退し涙を流したチームの分までがんばろう」「昨年までチームを引っ張ってくれた先輩たちの分までがんばろう」「いつも自分たちを支えてくれるたくさんの方々や切磋琢磨して一緒に練習を積み重ねた男子とともにがんばろう」を合い言葉に、厳しい練習を乗り越え、全国制覇をめざして京都に乗り込みました。

今年のチームは大柄な選手はGKだけで、あとは小柄な選手が多いチームでした。しかし走力に長けた選手が多かったこと、強い精神をもった選手が多かったことを含め、堅実な守備から速攻で得点するチームをめざしてきました。男子との練習を積み重ねていく中で、押し上げていくスピードが増し、自然とディフェンスも強固なものとなってきたので、どうにか7年前の雪辱をしたいと思っていました。

しかし、女子は7年ぶりの出場であり、全国の舞台を経験している子ども達はいなかったので、大会の雰囲気や会場の様子などにのまれないか、力を出すことができるのだろうかという不安がいつもありました。予選は戸惑いはあったものの2勝することができましたが、準々決勝の沖縄県代表仲西小学校との対戦は私の不安が的中する展開となりました。仲西小学校とは昨年の九州大会の決勝戦でも対戦し、7MTCで玉名町が薄氷の思いで勝利したチームです。予選の戦い方と全く違う戦術に大いに苦しめられ、ノータイムスローが2本入るという神懸かり的な勝利でした。試合は得点が入らない時間が何分間もありましたが、GKを中心とした堅守で何とか乗り越えることができ、改めて子ども達の精神の強さと心のつながりを感じました。準決勝大分日岡HC、決勝宮崎三松HCと九州勢の戦いを制し、玉名町小学校の女子としては初の全国制覇を成し遂げることができ、7年前の無念を晴らすことができました。この優勝は、これまで玉名町小学校女子ハンドボール部に関わってこられた選手たち、保護者の方々、歴代のスタッフの悲願でした。


【写真提供：スポーツイベント社】

これまで、必死に努力を続けた子ども達、支えてくださった保護者の方々、私のチーム方針に献身的に協力してくれたスタッフの方々、昨年まで女子部をつないでくれた指導者の方々、OGの先輩たちや保護者の皆様、私に温かい励ましや協力をしていただいた学校関係者、そして一緒に練習を積み重ねた男子部の子ども達と保護者の方々、本当に人と人とのつながりでこの優勝を勝ち取ることができました。玉名町小学校ハンドボール部に関わってくださったすべての方々や、この大会を運営していただいた京都協会のみなさんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。





第18回 ヒロシマ国際ハンドボール大会

最終順位

【男子】
優勝：日本代表
2位：湧永製薬
3位：カザフスタン代表

【女子】
優勝：日本代表
2位：広島メイプルレッズ
3位：江蘇省（中国）
4位：カザフスタン代表

個人表彰

【男子】
最優秀選手賞　小澤広太（日本代表）
優秀選手賞　久保侑生（日本代表）
野村浩輝（湧永製薬）
オシャク・バイエフ・シャンドス（カザフスタン代表）

【女子】
最優秀選手賞　高橋　恵（日本代表）
優秀選手賞　石立真悠子（日本代表）
大前典子（広島メイプルレッズ）
チョウ・ジャチン（江蘇省・中国）
ヴォルキヒナ・キシニア（カザフスタン代表）

男　子		日本代表	湧永製薬	カザフスタン	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1位	日本代表		35 ○ 20	40 ○ 19	2	2 - 0 - 0	75	39	36	4
2位	湧永製薬	20 ● 35		40 ○ 20	2	1 - 0 - 1	60	55	5	2
3位	カザフスタン代表	19 ● 40	20 ● 40		2	0 - 0 - 2	39	80	-41	0

女　子		日本代表	広島メイプル	江蘇省	カザフスタン	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1位	日本代表		30 ○ 28	29 ○ 18	39 ○ 23	3	3 - 0 - 0	98	69	29	6
2位	広島メイプルレッズ	28 ● 30		30 ○ 29	22 ○ 21	3	2 - 0 - 1	80	80	0	4
3位	江蘇省（中国）	18 ● 29	29 ● 30		24 ○ 16	3	1 - 0 - 2	71	75	-4	2
4位	カザフスタン代表	23 ● 39	21 ● 22	16 ● 24		3	0 - 0 - 3	60	85	-25	0

総評

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年の第12回広島アジア大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会も今年で18回目となりました。（2003年はSARS騒動のため中止）

日本ハンドボール界の悲願であるロンドンオリンピックを逃した男子の清水ジャパン、女子の栗山ジャパンは昨年から再スタートを切っていますが、今回の広島大会は昨年に引き続き、次の日本代表として期待される男女選手中心の日本代表が参加しました。

男子はカザフスタン代表、日本代表、それに地元広島から湧永製薬が参加、女子はカザフスタン代表、中国江蘇省、日本代表、そして広島メイプルレッズが参加し、それぞれリーグ戦形式で戦いました。

戦績及び表彰選手は別表の通りです。

カザフスタン代表は男女共故障者等でフル代表には程遠いチーム構成であり、ちょっと拍子抜けの感は否めませんでした。

女子の江蘇省チームは今年中国は国体を控え各省とも強化に力を入れているとのふれこみでしたが、長身選手は大勢いるものの、すでにシーズンに入っている日本勢の敵ではありませんでした。

オリンピック出場はもちろんのこと、入賞を目指す日本にとってはもっと強い相手と対戦することが強化策になると思います。外国チーム招致にあたって、もっと強化部と国際部との連携が必要と思われます。

最終日には例年通り広島市内のホテルで表彰式、サヨナラパーティーを行い大会の幕を閉じました。サヨナラパーティーではオタフクソースさんのご好意により会場の中にお好み焼きコーナーを設置していただきました。お好みソースの焼ける匂いに屋台の前は選手達の長蛇の列が出来、お好み焼きは大人気でした。屋台では、広島メイプルレッズの選手でオタフクソース勤務の林 あすみをはじめとした選手達も手伝っていました。

最後に、大会を開催するに当たり広島県・広島市をはじめ各方面から多大の協力協賛をいただいたことに感謝いたします。また今回も各ゲームをネット配信して下さった湧永製薬㈱様には改めてお礼申し上げます。

戦評

男子

■7月26日（金）

日本代表　35（17-5、18-15）20　湧永製薬



湧永のリバウンドでの得点で試合が始まったが、新メンバーとなった湧永の攻撃陣が機能せず、日本代表のディフェンスを崩せない。シュート力、スピード、展開力に勝る日本代表が着実に得点を重ね、11点の大差がついた。湧永も必死の攻撃を試みるが、大事なところでパスミスやシュートミスが出て波に乗れない。それでも最後に意地を見せてポストシュートやサイドシュートなどで3点を挙げ、17対5で前半を終えた。

後半に入ると、湧永は11番樋口を中心にポストを生かした攻撃ができ始め、思い切ったミドルシュートも決まり、一時は日本代表を8点差まで追い上げた。しかし、湧永の攻撃が徐々に雑になり、日本代表の効果的なロングシュートも決まり、最後は35対20で日本代表が勝利した。

【日本代表個人得点】信太：8点、山城：5点、小澤・高智：4点、森・岸川：3点、石戸・成田：2点、地引・加藤・時村・千々波：1点

【湧永製薬個人得点】今井：9点、樋口：4点、佐藤：3点、中浦：2点、野村・新：1点

■7月27日（土）

湧永製薬　40（20-11、20-14）25　カザフスタン

湧永製薬のスローオフで試合開始、このオフェンスでロングシュートが決まり湧永先制。その後、10分まで両チームともリズムをつかめず4対4と時間が過ぎた。カザフスタンがポストの競り合いでオフェンスイエロー。この流れをつかみ湧永製薬が速攻で3連取。ここでタイムアウトを取ったカザフスタン。タイムアウト後も湧永の勢いは衰えずディフェンスから速攻といい流れに持っていき15分4対10とした。両チームともディフェンスが固まらず、9対15と湧永リードで25分を過ぎた。湧永がミドルシュートなどで点差を離しにかかるが守り切ることができず前半終了直前の速攻を湧永が決め11対20、湧永リードで前半を終えた。

後半開始すぐにオフェンスの形を変えたカザフスタンがロングシュートで勢いがついたように見えたが、湧永もやられてはやり返し10分過ぎ18対28。カザフスタンの苛立ちがディフェンスにあらわれ退場者、ベンチイエローが立て続けに出た。この間キーパーの好セーブもあり湧永6連取し17分過ぎまでに18対34とした。このまま試合の流れは湧永。カザフスタンも落ち着きを取り戻したが試合を25対40で湧永勝利で試合を終えた。

【湧永製薬個人得点】樋口・仁平：8点、野村：7点、東江：5点、佐藤・今井・中浦：4点

■7月28日（日）

日本代表　40（21-7、19-12）19　カザフスタン代表

日本は序盤からカザフスタンを圧倒。キーパーの攻守やカザフスタンの拙攻から速攻を決め加点していった。カザフスタンはポストを使った攻撃を展開したかったが、日本にポストをしっかり押さえられ、反撃の糸口もつかめなかった。カザフスタンは18分過ぎ、日本の速攻に対してのディフェンスにレッドカードが出され、ますます苦しい展開となる。しかし、日本のミスやキーパーの攻守に次々と阻まれ、得点はチャンスの数ほど伸びていかなかった。21対7の日本リードで前半を折り返した。

後半開始直後はカザフスタンの時間帯となったが、それも束の間、地力の差はいかんともしがたく、再び日本が加速、もどりの遅いカザフスタンに対し、次々と速攻を決めていった。試合は40対19の大差で日本が大勝した。

【日本代表個人得点】小澤：11点、高智：7点、地引・石戸・山城・時村：4点、武田：3点、成田・岸川・千々波：1点

女子

■7月26日（金）

日本代表　30（14-11、16-17）28　広島メイプルレッズ

総合力で勝る日本代表に対して、メイプルも7番宋10番呉を軸とした粘り強い攻撃で対抗し、12分過ぎまで6対6と接戦となった。積極的に前に出てくる日本代表のディフェンスに対して、15分過ぎからメイプルの攻撃がやや単調になった。そのため、メイプルのシュートミスなどからの日本代表の速攻が立て続けに決まり、一気に5点の差がついた。その後メイプルも持ち直して再び粘り強い攻撃を見せたが、肝心なところでサイドシュートが決まらず、14対11と日本代表リードで前半を終えた。

後半開始から日本代表のディフェンスを崩せないメイプルに対して、日本代表はスピード豊かなボール展開からロング、速攻、サイドシュートが決まり、一時は8点差まで点差が広がった。しかし、20分過ぎから、メイプルの必至のディフェンスが日本代表の攻撃のテンポを崩し、サイドシュートも効果的に決まり、驚異的な粘りで2点差まで追い上げたが、そこでタイムアップとなった。

【日本代表個人得点】錦織：7点、東濱・早船：4点、上町・石立：3点、高橋・田邉：2点、増田・稲葉・横嶋・原・永田：1点

【メイプル個人得点】宋：7点、高橋・木村：5点、呉：4点、大前・安齋：3点、塩見：1点

■7月27日（土）

日本代表　29（19-8、10-10）18　江蘇省（中国）

立ち上がりは様子の探り合いの中、中国がスピードを生かしたプレーで4対2とリードした。しかし、ここから中国に攻撃のミスが目立ち始め、日本がミスを速攻に結びつけた。中国



のタイムアウトを挟んで一気に10得点し、あっさりと逆転した。日本のディフェンスの動きもよくなり、高い位置で中国の動きを止め、安定した試合運びで点差を開いた。前半終了間際に中国も意地を見せ、ポストプレーなどで得点を挙げ、19対8で前半を終えた。

後半開始も探り合いの中、日本の攻撃にミスが目立ち、中国が速攻に結び付ける展開となった。速攻からポストへの展開で得点を挙げた中国がやや点差を詰めた。中国のディフェンスも日本のスピードに乗った展開に対応し、こう着状態になったが、20分過ぎから再び日本のスピードが中国のディフェンスを崩して得点を重ねて点差を広げ、29対18で終了した。

【日本代表個人得点】藤井:8点、田邉:4点、早船:3点、増田・高橋・稲葉・横嶋・石立:2点、上町・錦織・東濱・原:1点

広島メイプルレッズ 22（12-11、10-10）21 カザフスタン代表

立ち上がりメイプルは動きが悪く、オフェンスでは詰めでミスが出て、ディフェンスでは身長のある選手に押し込まれて失点し、10分過ぎには5対2とカザフスタンがリードした。ここからメイプルの動きが合い始めて拮抗状態となり、15分過ぎまで2点差が続いた。15分過ぎからはメイプルのディフェンスが1対1を止めるようになり、カザフスタンのシュートミスを速攻につなげて逆転した。一時は3点差まで点差を広げたが、カザフスタンもポストをうまく利用した攻撃で追いすがり、12対11のメイプル1点リードで前半を終えた。

後半の立ち上がりお互いにミスが多く、リズムに乗れない中、相手のミスをうまく速攻に結び付けたメイプルが10分までに5点差まで広げた。ここからお互いにミスの多い中、カザフスタンはポストを有効に使い、メイプルは速攻やスピードのある攻撃からのサイドシュートで効果的に得点を挙げて、25分過ぎまで5点差が続いた。最後にはカザフスタンが意地を見せて、ディフェンスを固めての速攻、8番のミドルシュートなどで追いすがり、22対21の1点差で終了した。

【メイプル個人得点】宋:6点、大前:4点、高橋・木村:3点、石田・安齋:2点、塩田・加須屋:1点

■7月28日（日）

広島メイプルレッズ 30（15-15、15-14）29 江蘇省（中国）

序盤、メイプルレッズは中国のカットインに足をよく動かし対応するが、中国の高さに高さには対応しきれない様子であった。攻めも歯車が微妙にかみ合わず、ミスから中国の速攻により失点、リードを許す展開となった。その後、ミスの多くなった中国に対し、メイプルレッズは速いパス回しからのカットインや速攻で追い上げ、前半残り10分には同点に追いついた。残り10分、ポストパスにこだわりミスを連発する中国であったが、メイプルレッズも要所を決めきれず、両者決め手のないまま15対15の同点で前半を折り返した。

後半に入っても取っては取られの攻防を繰り返すが、ロングやミドルレンジからの攻撃が見られなくなってきた中国は攻め手を欠くようになり、メイプルレッズに引き離されていくかに見えた。しかし、メイプルレッズは、勝負どころでのシュートを中国のキーパーに阻まれ、思うように得点差は開かなかった。後半15分から、メイプルレッズはポスト高山が不在のためか、ノーポストで攻撃を試みるが、これも思ったような効果をあげることはできなかった。逆に中国はスッテプシュートに活路を見出し、次々とシュートを決め、息を吹き返した。残り5分、再び同点となったところでメイプルレッズがたまらずタイムアウトを要求。タイムアウト後、中国はディフェンスを6－0ディフェンスから5－1ディフェンスに変更し、勝負をかけるが、サイドディフェンスが退場、その後、続いて退場者を出し常に人数の少ない状態で戦わなければならないという不利な状況に追い込まれた。中国は、残り14秒、1点のビハインドでタイムアウトを要求。最後の攻撃にかけるが、シュートに至らず、タイムアップ。ノータイムフリースローもゴールを捉えることはできず、1点差でメイプルレッズが勝利を収めた。

【メイプル個人得点】宋:9点、大前・木村・安齋:5点、高橋:3点、河田・呉・塩田:1点

日本代表 39（25-8、14-15）23 カザフスタン代表

日本代表のスローオフで試合開始。序盤はカザフスタンのオーバーステップやパスミスなどが続き、日本がこれを速攻で確実に決め8対2と6点差をつけゲームを楽に進めることにつながる。8分過ぎ、カザフスタンがタイムアウトを取り日本代表の勢いを断ち切る。日本代表の勢いは止まったように思われたが点差は縮められず、じわじわと日本代表が点差を広げていき、17分に16対6とした。日本のスピードプレーに足がついていかないカザフスタンはディフェンスが荒くファールを積み重ね、点差をさらに広げられた。度重なるオフェンスファール、ディフェンスにいらだちを隠せないカザフスタン監督にイエローカードが出され、さらにゲームの流れは日本側に傾いた。この試合オフェンス成功率の高い日本代表はカザフスタンのミスを確実に点につなげ、25対8で前半を終えた。

後半開始7分までに7mスローを2本獲た日本代表これを2本ともカザフスタンのキーパーの好セーブにより阻まれ、ディフェンス、オフェンス共に、後半のペースが作れない日本代表。11分過ぎにはカザフスタンの速攻が決まり点差を徐々に詰めていき30対16で日本がタイムアウトを取った。16分過ぎ前半とは打って変わって点差をキープするカザフスタンのオフェンスは高さを生かしたロングシュート。前半の点差が悔やまれる中キーパーの好セーブも続きこれ以上の点差は広げまいと33対19となった。ロングシュートに対し日本代表は高い位置での6－0ディフェンスシステム。パワーでディフェンスの間を抜けるカザフスタンのオフェンスは前半には見られない粘りがあった。そのままの点差を守り試合終了。39対23とした。

【日本代表個人得点】藤井:6点、稲葉・石立:5点、増田・高橋・上町:4点、東濱・田邉:3点、河田:2点、錦織・原・永田:1点

～どんな愛称になるかな～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

随分前のことになるが、この欄で「ハンドボールも愛称をつけたらどうだろうか」という提言をしたことがあった。やっとそれが実現する時がやってきた。

8月中旬、日本協会が「女子日本代表」の愛称募集を発表した。年の瀬の12月、セルビアで開かれる世界選手権に向けてアピールすることにしたものだ。

愛称は海外でもいろいろとつけられているが、日本でも多くの競技団体が採用している。

なかでも最も知られているのが「なでしこジャパン」だろう。2011年にドイツで行われたFIFA（国際サッカー連盟）女子ワールドカップで優勝、一躍人気スポーツの仲間入りを果たした。

国民栄誉賞を受賞し、さらに女子団体スポーツでは初めてとなる紫綬褒章も受章している。また、この年には新語・流行語年間大賞にも選ばれるなど「なでしこ」の名前は全国に知れ渡った。

その他では、サッカー日本代表がサムライブルー、男子の野球は侍ジャパン、バレーボールは男子が龍神NIPPON、女子が火の鳥NIPPON、ホッケーは男子がさむらいJAPAN、女子はさくらJAPAN、といった具合だ。

ほかにもいろいろあるが、なでしこやバレーボール、ホッケーなどはそれぞれ公募で決まったものである。

ハンドボールでは一時、男子がムササビジャパン、女子がプレーする7人と7色の虹をかけてレインボージャパンと言われたこともあったようだ。しかし、残念ながら、ともにいつしか姿を消してしまった。

さて、今回の公募。最終的には11月ごろ決まるということだが、果たしてどのような愛称になるのか、楽しみである。愛称をつけることは、ファンやサポーターに対してはもちろん、広く国民にハンドボールという競技を知ってもらうという“認知度アップ”の狙いがある。オリンピック出場を逃し続けている球界としては、なんとしてもここらで広く国民にハンドボールを知ってもらい、代表の背中を押してもらいたい願いもあるだろう。

日本協会は募集にあたって「女子日本代表にふさわしい、親しみやすく、呼びやすい」ということを掲げている。一気に「なでしこ」の認知度まではいかないにしても、多くのファン、サポーターに長く、広く知れ渡るものであってもらいたいものである。

どれだけの応募があるか、どのような多くの愛称が寄せられるか。選考に困るくらいの“名案”があれば喜ばしい限り。また、この際、男子日本代表にも、愛称をつけたいと思うのだが、どうだろうか。

11月を待ち遠しく感じながら、素晴らしい愛称誕生を待っていたい。ちなみに「なでしこ」の公募には約2,700通が寄せられたという。

第38回（2013～14シーズン）日本



男子チームの監督と多田日本ハンドボールリーグ機構会長

大同特殊鋼 Phenix 末松　誠	トヨタ車体 BRAVE KINGS 酒巻清治	大崎電気 OSAKI OSOL 岩本真典	湧永製薬 WAKUNAGA LEOLIC 玉村健次

琉球コラソン 東長濱秀吉	トヨタ紡織九州 Red Tornado 白倉　悟	豊田合成 Blue Falcon 畠中益喜	北陸電力 ブルーサンダー 神田友和	トヨタ自動車東日本 REGAROSSO 中川善雄

第38回（2013-14シーズン）日本ハンドボールリーグは、既に8月31日（土）から、2014年2月23日（日）までのレギュラーシーズンが開催されていますが、開幕週の8月26日（月）午後、岸記念体育会館にて開幕記者発表が行われました。日本ハンドボールリーグ機構家永昌樹GMの司会で始まった記者発表は、冒頭、日本ハンドボールリーグ機構多田博会長より挨拶と「暴力排除宣誓」が読上げられました。引き続きリーグ実施要綱の説明がされ、男子は9チームの2回戦総当たり、女子は新たに「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」が加わり7チームの3回戦総当たりとなり、プレーオフは2014年3月8日（土）、9日（日）の両日、男子・女子共に上位4チームがプレーオフに進出し、優勝を目指したトーナメントが展開されます。

注目は、男子では昨年の王者で7月の社会人選手権でも優勝の大同特殊鋼の3連覇がなるか、守護神・久保侑生、エース・高景洙の活躍も見ものでしょう。豊田合成には、デンマーク帰りの、コーチ・吉村晃と出村直嗣がチームの意識改革による、台風の目になるかが目を離せません。選手では、デンマークから復帰の、トヨタ車体・門山哲也の熱いパフォーマンスでチームを優勝に導けるか。琉球コラソン・中村章吾は開業医からの転職でありハンドボールへの情熱がチームにどのように好影

ハンドボールリーグ開幕記者発表



女子チームの監督と多田日本ハンドボールリーグ機構会長



オムロン
ピンディーズ
黄 慶泳



広島
メイプルレッズ
呉 成玉



北國銀行
Honey Bee
荷川取義浩



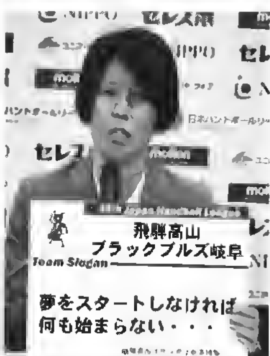
ソニーセミコンダクタ
BLUE SAKUYA
小薮憲次



三重
バイオレットアイリス
緒方嗣雄



ＨＣ名古屋
近藤澄江



飛騨高山
ブラックブルズ岐阜
山川由加



日本ハンドボール
リーグ機構 GM
家永昌樹



日本ハンドボール
リーグ機構会長
多田 博



日本ハンドボール協会
専務理事
川上憲太

響を与えるか期待です。

女子では昨年の王者で７月の社会人選手権でも優勝のオムロンの３連覇がなるか、広島メイプルレッズが、リーグ得点王の栄海林、若手の増田寛那、精神的支柱の大前典子らの活躍で黄金時代の再来なるか、三重バイオレットは若手の原希美、山根エレナ、エースの早船愛子らの融合で、初のプレーオフ進出なるか見逃せません。選手では、昨シーズンプレーオフのMVP・オムロン・石立真悠子の安定したプレー振り、ソニー・田中美音子は男女を通じて最多の日本リーグ通算1272得点をあげ前人未到の地を突き進む姿にも注目です。

その後、日本リーグ監督（男子９チーム、女子７チーム）の紹介と、夫々のチーム監督から「チームスローガン」・「攻守のキープレイヤー」等の報告がされました。

さあ、プレーヤーの活躍ぶりを是非とも、日本リーグの試合会場に足を運んで、間近で迫力ある選手達のプレイを観戦しましょう。

日本リーグの情報は、http://www.jhl.handball.jp/ にて日程や試合の結果などの最新内容がアップされていますので、ご覧下さい。

平成25年度 第21回全日本マスターズハンドボール大会

■8月2日（金）

全国各地並びに台湾から生涯現役ハンドボーラーが花巻市に集い、10：30～日居城野運動公園陸上競技場で11人制試合の開会式が行われました。高橋宏明事務局長の進行により、小山哲央競技委員長の挨拶､陳全壽台湾チーム団長の挨拶に続き、谷川富男競技副委員長から「岩手ハンドボール発祥の地であるこの競技場で、第12回花巻大会から始まった11人制ゲームを大いに楽しみましょう！」と声高らかに開会宣言が行われました。停電による新幹線ストップのために遅れて到着したチームに配慮して可能な限り対戦カードを組み直し、名古屋ATF A－台北女子を皮切りに7試合が繰り広げられました。何回でもやり直しOKの連続ドリブルを巧みに操り、吸い込まれるようにロングループシュートが決まると、緑鮮やかな天然芝ピッチ一円が歓声に包まれました。

その後、花巻市総合体育館に移動し、15：30～マスターズ専門委員会、17：00～三陸沿岸被災地の現況をまとめたDVD上映に続いて「開会式」が行われました。岡市武岩手県協会理事長の進行により台湾チーム紹介に続き、國民復興小学手球隊による集団演技、陳全壽台湾チーム団長の挨拶、角紘昭日本協会常務理事の挨拶、小友正人岩手県協会会長及び大石満雄花巻市長からの歓迎挨拶、モッピークラブ小森園多恵子選手による代表挨拶が行われました｡続いて開催された競技運営委員会で、競技日程の変更と試合運営、特別ルール、トレーナーブースの活用による傷害予防や熱中症対策などの健康管理について確認が行われました。

■8月3日（土）

花巻市総合体育館（4面）で交流型男子19試合、60歳以上の部および小学生国際親善試合が行われ、富士大学スポーツセンター（4面）で順位決定型男女14試合と交流型男女22試合が行われました。各チーム2～3試合ずつの熱戦が繰り広げられ、往時のイメージとのギャップに苦笑しながらも大会趣旨に則って存分にゲームを楽しんでいただきました。

19：00～花巻温泉ホテル紅葉館で460名参加の歓迎レセプションが盛大に行われました。伝統ある「胡四王神楽」の後、多田博日本協会副会長の挨拶、小友正人岩手県協会長の歓迎挨拶、田嶋正義東北社会人連盟会長による「神楽の舞いで祈祷してもらったから大丈夫。存分に試合と今宵の歓迎会を楽しもう！」の発声により乾杯。各種表彰、台北チームによる艶やかなベリーダンス披露、復興支援団体SAVE IWATEから台湾への感謝のスピーチ…45テーブルの参加者が百花繚乱のごとく入り乱れ最高潮に達した後、東江正作沖縄県協会理事長から来夏の開催に向けたスピーチをいただいて閉会となりました。

〈各種表彰〉

＊80歳参加表彰：河内鋭雄（LBC葵エルム（東京））

＊通算20回出場表彰：モッピークラブ（大阪）、武蔵野クラブ（東京）

＊10回出場表彰:東京都社会人連盟､豊橋マスターズ(愛知)､Fenice（フェニーチェ、愛知）

■8月4日（日）

花巻市総合体育館で順位決定型男女と交流型男女の計15試合、富士大学スポーツセンターで交流型男子14試合が行われました。

花巻市総合体育館で行われた順位決定型女子最終戦「御座姐－NEWフェイス」は3勝同士の決勝となり、互いに好プレーの応酬の末、8－7で御座姐が優勝。同アネックス最終試合の順位決定型男子決勝戦では、長野選手の右サイドからの巧みなループシュート､宮下選手の強烈な高打点ランニングシュート、首藤選手のテクニカルなミドルシュート等でオールドフェイスが有利に試合を運び前半を折り返すと、後半、GHBP ARESはサウスポー広政選手の多彩なシュートを軸に若さ溢れる機動的なディフェンスからの速攻で一気に抜け出し、初出場初優勝を飾りました。歓喜に沸くGHBP ARESと健闘したオールドフェイスに大きな拍手が送られました。

交流型男女を含めて最終試合後、互いに健闘を称え合い再会を誓っていました。

閉会式では、角紘昭日本協会常務理事より順位決定型男女各3位に宮沢賢治こけしトロフィー、賞状及び副賞が、台北女人四十一枝花手球隊へ特別賞が贈られ、谷川競技副委員長による閉会宣言で3日間の大会の幕を閉じました。

総　評

大会総務委員長　中島 昭博

開幕前夜まで続いた長雨により、“雨ニモマケズ…”と覚悟して迎えた大会初日､改修後の日居城野運動公園陸上競技場で､梅雨明けの快晴と爽風の下、ベストコンディションの芝生ピッチで開催した11人制試合を皮切りに、お世話になった方々と参加者への贈り物のような連日の好天に感謝し、元気闊達なプレーと数々のお心遣いに感動をいただいた3日間でした。

大会中、大きな怪我は2件（アキレス腱断裂、股関節骨折）ありましたが、選手自身の日常の心がけに感心するとともに、トレーナーの献身的なサポートに感謝しております。

花巻市総合体育館ロビーでは､NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で人気の土産品販売及びまめぶ汁の振る舞い、復興支援団体SAVE IWATEによる宮古・釜石の復興支援グッズ販売、2016希望郷いわて国体PR及び募金を行っていただき大会を盛り上げていただきました。皆様から寄せていただきました被災地への心温まる支援と募金の善意に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

今回、台北女子チーム及び復興小学男女チームに参加していただいたことは、台湾からの多大な被災地支援への御恩に感謝の意を伝えることができ、友好親善を深めるよい機会となりました。仲介いただきました小山哲央氏及び陳全壽氏をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

日本協会マスターズ専門委員会及び沖縄県協会には、開催順を繰り上げて開催させていただいたことに改めて感謝を申し上げます。また、花巻市、東北ハンドボール協会、名鉄観光株式会社をはじめとしてご支援いただきました関係各位に心から御礼を申し上げます。

結びに、この大会が東アジア、環太平洋マスターズへと国境を越えて交流の輪が広がることを夢見て、次回の沖縄大会が大成功となりますよう祈念しております。

めんそーれー　美ら島沖縄マスターズ♪

第1回全日本Over60マスターズハンドボール in いわて花巻

競技委員長　小山 哲央

記念すべき第1回全日本Over60マスターズが、花巻市総合体育館にて実現いたしました。実は第1回11人制マスターズも花巻市で開催されております。今回実施された4競技7人制交流型・同順位決定型、Over60マスターズ、11人制マスターズのうち、2競技が花巻市で産声をあげたことになります。新しい企画に取り組む岩手県・花巻市の両協会の、素晴らしい応対に驚嘆するとともにそのご努力に心から感謝申し上げます。

さて、大会には4チームが参加しました。その内訳は、唯一単独で参加したHC名古屋ATFチーム、LBC・葵・エルムチーム、神楽坂シニヤ・同フェニックス・秋桜柏チーム、そして東京社会人連盟・東北マスターズ（山王・桜雲・七戸・盛岡・花巻）チームの3チームは、それぞれ合同チームとなって参加しました。

まず大会参加者を世代別に比較して見ますと、80歳台は82歳の太田耕治氏（HC名古屋ATF）、81歳の前田勝氏（東京都社会人連盟）、80歳の河内鋭雄氏（LBCアルバトロス）の3名を始め、75歳以上2名、70歳以上5名、65歳以上13名、60歳以上33名トータル56名の参加者が4チームに分かれ、リーグ戦方式でハンドボールを楽しみました。

又、得点も年齢によって異なり、年齢差の不利を少しでも解消しようとハンディキャップ制を導入しました。例えば80歳代は1本シュートを決めると6点を獲得できる等、何歳になっても楽しくプレーができるよう特別ルールを採用しました。ハンドボールをますます楽しんで頂くためにも、年齢差を解消する特別ルールを検討していきたいと考えております。

今年は男性チームだけの参加でしたが、第2回沖縄大会では是非女性群も参加して頂き、更に盛り上がりのある大会を目指して行きたいと考えております。

大会連続出場と国際交流と被災地巡礼の旅

瀬戸内レディース　藤岡 喜久恵

まず、今大会運営関係者の皆様には2年前に東日本大震災があったにもかかわらず、大会をお世話していただき、ありがとうございました。

さて、今年のマスターズ花巻大会で我がチームは初回から21回連続出場を達成、そして、このたびは台湾チームとの国際試合を経験することができました。また、この機会に念願であった被災地と世界遺産の平泉中尊寺を訪れることができ、個人的にもとても意義ある大会となりました。

試合ではメンバーがぎりぎりだったため、みんなの体力面が心配だったのですが、東北花巻はなんと、初秋を思わせるような気候だったのでハンドボールを十分に楽しむことができ、その上、国際交流もできてとてもよい思い出となりました。

試合後には、仲間と震災2年後の被災地、大槌、陸前高田、気仙沼を回りました。被災地に立つとただただ、なんとも・・、言葉になりませんでした。自分たちにできたことは手を合わせ、震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りすることでした。

最後に、被災された方々におかれましてはまだまだ大変厳しい状況にあるかとは存じますが、お元気でいらっしゃることをお祈りするとともに、一日も早い復興がなされることをお祈り申し上げます。

通算20回出場表彰を受賞して

大阪モッピークラブ　津熊 美智子

中京大学学生寮（青雲寮）を宿舎に、体育館を試合場に、そして学内の喫茶店を食事場所兼懇親会場として開催された第1回大会から、不参加の3回大会を除いて20回出場を果たした結果、今回思わぬ表彰を受けてステージ上で紹介を受けたことは感慨深いものがありました。おまけに宮沢賢治の雨ニモマケズが書かれた「のれん」まで頂戴して帰宅後、我が家の台所にかけさせて戴きました。

第12回花巻大会の時は花巻空港、今回は新幹線で新花巻駅へ到着して感じたのは…ああ涼しい…という事でした。蒸し暑い大阪から来た者にとっては良く眠れて体調管理もでき楽しくゲームが出来る予感で一杯でした。4面のコートがとれる屋内競技場も懐かしく羨ましく、前回この会場での我がチームのエピソードも思い出し笑いも出ました。懇親会も全員が顔を合わせられる広さの会場と席決めの気配りや開宴前の演舞など行き渡ったもので、勿論お料理も満足のいくものでした。シャトルバスの送迎も大助かりでした。体育館を後に新花巻駅に向かうバスを持っている時の地震の揺れには驚きました。まだこんな揺れが続いている東北地方の皆様に何と申しあげたらいいか、早い復興を願っています。

年齢を重ねてくるとチームに審判資格を持つ者がいなくなり、帯同審判は悩みの一つでしたが、今回はモップ係をするのみで、オフィシャルも地元の高校生がお世話して下さり、折角の夏休みでしょうに大変有り難く思いました。

前回大会終了後、友人と大沢温泉・志戸平温泉に宿を求め、タクシーを時間契約して平泉・遠野等回りましたが、今回は秋保温泉・松島へと足を伸ばし、仙台七夕を堪能し、念願の牛タンを食し帰阪しました。他のメンバーも盛岡でわんこそばを食べ、さんさ踊りを観光したようで、震災の影響が多々残る地域に少しばかり応援ができたかなと思っています。

毎回大会に参加していると、かつての大会では、女性は35歳以上が参加資格の筈がうそでしょうというぐらい迫力もスピードもあるプレイやシュートを見せてくれた選手も、年々衰えが見え、あのタイミング・体勢・角度のシュートなら昔は決まっていたなぁと知らされるのもマスターズ大会の面白さでしょうか。我がチームは諸般の事情で若手の参加が少なく、ワンポイントリリースで66歳2名がゲームに出る羽目に。事前練習会は6月に1回できただけで、怪我をしないようにとそれ



11 人制大会集合写真



順位決定型決勝進出２チームの集合写真

それがトレーニングをした筈が、かえって膝が、踵が、脚が痛み、ぎりぎりの人数で１日に３ゲームは大変でしたが、親切なトレーナーのお世話になり感謝しています。 ぎりぎりの人数の理由は高校生の大会がすぐ後に控えていて練習付き添い指導であったり、職場がお盆前で休めないとか経済的な面とか様々ですが、時間もあり経済的余裕が有る者となると困ったことに我々のような立場の者になるのは仕方がないのでしょうか。応援団として参加して、後は観光と勝手な事を考えている私にとっては困った事です。年齢相応のハンドボールをすることが必要なようです。来年は沖縄開催だとか、元気で参加できるようにしたいものです。

今回の大会運営に当たって下さった多くの皆様に感謝と御礼を申しあげて感想と致します。有り難うございました。

マスターズ大会への軌跡

GHBP ARES No. 5・主将　高野　悟

私達は 2011.3.11 東日本大震災以降、ハンドボール人として自分達に今出来る事は何か？「ハンドボールで日本を笑顔に！」をスローガンとした小・中学生男女大会、「HAND TO HAND チャリティトーナメント」を有志で集まった仲間達で作りあげ、去年、今年と開催しました（第 10 回大会まで継続目標）。内容は、岩手県、宮城県、福島県の震災の影響で部活をやりたくても出来なかった子供達を神奈川県へ無償招待をして各地の選手とゲームして思い出を残してもらえたらと…。

この大会でボランティアとして協力して頂いた、俳優西村和彦さんや熱血ハンドボール人に声をかけ、岩手県花巻市で行われた全日本マスターズ日本一に向け「GHBP ARES」を結成しました！　第２回チャリティトーナメントに招待した岩手県矢巾中学校の一生懸命のプレーに心打たれました。私達も彼らの故郷岩手県で日本一になり、感謝の気持ちをガチンコプレーで返そうと、チーム一丸となり日々トレーニングを重ねて来ました。結果、順位決定型で「優勝」して日本一になる事が出来ました！

私達「GHBP ARES」はこれからもボランティア活動を続け、マスターズ大会も V2 を目指し一生懸命に取り組んで行きます！

生涯ハンドボールと絆！

GHBP ARES No. 24　西村 和彦

花巻大会に参加出来、ハンドボールが生涯スポーツだということを再認識させてもらいました。

「GHBP ARES」の強さは仲間を信じる絆の強さです。このチームで優勝できて本当に感無量です。

今後もこのスポーツの素晴らしさを俳優として、ハンドボール人として、子供たちは勿論、広く世間に伝えていきたいですね。

三連覇は全員ハンド！　全員得点の結晶 !!

御座姐　太田 光恵

３年前の大阪開催をきっかけに「御座姐」が誕生しました。もともと大阪で「御座候」というチーム（岩手含めたメンバー）があり、メンバーの姐さん達だけで結成し「御座姐」というチーム名となりました。

今回、三連覇のかかった大会。しかし、主力の市来不在、怪我人、仕事上参加できないなどメンバー８人ぎりぎり（内１人手の骨折）。全員フル出場からは逃げられない。全員が体調万全ではない。メンバーの子供が高熱…。本当に数えきれないほどの、不安、プレッシャーがのしかかっていたのは間違いありません。想定外なことばかりで１戦１戦怪我なく終えることだけが、チームの合言葉のようになりました。しかし、いざ試合になれば皆の顔つきもガラッとかわり、それぞれのポジションを任されることへのプレッシャーも、全員得点へとつながりました。骨折しながらもゴールネットを揺らした池内の得点！　ラスト 10 秒、誰もがドローで終わっていいと思っていた決勝打の多田のシュート！　ホイッスルが鳴った瞬間、全員ハンド、全員得点をした達成感とともに流したことのない涙が溢れでてきました。

優勝！　三連覇！　そしてこのメンバーで勝取った大会は、「御座姐」の今後のマスターズ大会に拍車をかけることになりそうです。

今回の大会運営に携わって下さった多くの皆様ありがとうございました。

第 21 回全日本マスターズハンドボール花巻大会に参加して

台北女子選抜手球隊監督　高　英傑

私達、台北女子選抜手球隊は全日本マスターズに再び帰ってくることが出来ました。これも花巻市及び花巻市ハンドボール

協会の一方ならぬご協力があったからです。本当に有難うございました。

私達は初めて11人制ハンドボールを体験することができました。美しい緑の芝生のグランドに燦燦と照る光を浴びて行うハンドボールに衝撃を覚えました。しかも、第一戦のHC名古屋ATF（A）に勝つことが出来たことの驚きと感激で複雑な気持ちになりました。

7人制ハンドボールも楽しい思い出です。

まず富士大学の巨大な体育館に度肝を抜かれました。雪深い北国ならではと感心すると共に大学がスポーツを奨励していることがよく理解できました。試合も久し振りに同年代のチームと行うことができ、この大会に参加しなければ味わうことが出来ないハンドボールを満喫することが出来ました。

皆で一生懸命に練習してきたダンスを懇親会の席で披露することができました。この大会に招待して頂いたことに対する感謝の気持ちを皆様に伝えたかったからです。

最後に、日本の高いハンドボール文化を改めて認識させて頂くと共に来年の沖縄大会も参加するぞ！と心に誓いました。

御礼状

新北市中和區復興國民小學校長　林　木城

日本国岩手県花巻市で行われた第21回全日本マスターズハンドボール大会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。来日前に、子供達は普段の練習と共に、健康体操というスペシャルなショーを準備してきました。これにより、日台両国の運動交流がもっと深くなるように望んでいます。皆様の熱情応援と拍手で子供達に自信を与えて頂き、ドキドキの心も落ち着きました。

今回、本校の子供達と矢巾と花巻の生徒達と8回の友好試合を行いました。小さな選手達は勝負を問わずに楽しんで、力を尽くしてシュートチャンスを掴んで一生懸命頑張りました。ハンドボールの技と楽しさを良く切磋琢磨してくれました。

今回の大会選手には、一番若い私たちを除いて、驚いたことは頭が真っ白のお爺さんたちがいらっしゃいました。若い選手に負けず、ボールを投げたり、受け取ったり、ジャンプシュートなど、さすがのプレーでした。ハンドボールは年齢に拘らず、興味があれば誰でも参加できるという事が今回の大会でよくわかりました。日本ではハンドボールなどのスポーツを重視されて、国民はよく運動して、やはり世界で長寿国のひとつになりました。

また、試合ではなく、交流活動とかスペシャルなプログラムなども我々の心に印象深く残りました。オリンピック選手との交流会で、子供達が言語がよくわからないですけれども、オリンピック選手と一緒に7mシュートとか、風船を破るなどのゲームで子供達は楽しんでいました。特に最後のオリンピック選手のポスターをもらった子供は生涯絶対忘れない体験となりました。紫波総合高校のさんさ踊りもとても素晴らしく、美しい姿勢と華やかな衣装で、皆で踊りながら、一緒に楽しんでいました。まるで、盛岡夏祭りに参加したように賑やかな雰囲気を感じていました。



なお、今回の大会では環境衛生の管理とか、試合の流れとか接待サービスなどの点を我々が見習わなければなりません。

岩手県と花巻市のハンドボール協会にいろいろお世話になって、ハンドボーラー同士一緒にプレーして、すごく楽しかったです。我々も貴国のハンドボール愛好者を招いてお互いにご指導を頂くことを心から望んでいます。最後にあらためて感謝いたします。

郷土芸能と2020五輪開催地決定1ヵ月前イベントと小学生親善試合による国際交流

大会総務委員長　中島 昭博

8月3日（土）花巻市総合体育館アネックスにて、試合の合間に紫波総合高校郷土芸能部による「さんさ踊り」が披露されました。台湾と岩手の小学生が輪踊りに参加して交流した後には、2020五輪開催地が決定される1ヵ月前イベントとしてオリンピアン・トークライブが行われました。ゲストに1988ソウル五輪日本代表宮下和広選手、首藤信一選手（以上、オールドフェイス）及び元日本女子代表主将 佐久川ひとみ選手（富士大学）を迎えて、俳優西村和彦選手（GHBP ARES）と大会記念Tシャツを製作していただいたアグーデザインプロダクト代表取締役CEO光武勉氏に進行役をお願いし、台湾新北市中和區復興國民復興小学、矢巾フェニックス及び花巻クラブジュニアの小学生男女70人を前に、ハンドボールとの出会いや魅力、五輪・世界選手権のエピソードを披露していただきました。

途中、観客席から1976モントリオール五輪出場及び1980モスクワ五輪代表の穂積豊彦選手（兵庫選抜）がサプライズで合流すると、小学校時代に穂積選手のプレーをテレビで見てハンドボールを始めたという西村さんは憧れの選手とのご対面に感激一入で軽妙なトークもヒートアップ。ゲストと小学生の7mスロー対決、風船くじで全員にプレゼントが手渡され、小学生にとっては嬉しい夏の思い出となりました。アシックス、モルテン、大崎電気、GHBP各社より景品を、ソウル五輪時のプレー写真をスポーツイベント野村様にご提供いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

イベント後に、林木城復興國民小学校長と小友正人岩手県協会長、並びに、小学生間で記念品の交換が行われ、台湾と岩手の小学生による国際親善試合が行われました。欧州の大会にも参加しているという台湾チームは、心技体のバランスのとれた素晴らしいパフォーマンスをみせて全ての試合で圧倒的な勝利を収めました。大差で敗れた岩手の小学生チームにとっても、試合前から互いにプレーの確認をするなど緊張感をもって臨んだ初の国際試合は貴重な経験となったようです。

欧州マスターズハンドボール選手権　2013EMHC 2013 ブリクセン（イタリア）から

今年で 10 回目となる欧州マスターズハンドボール選手権は、2013年6月13日から3日間に亘り、イタリアのブリクセン／ブレッサノーネ、南チロル地域の各都市で行われました。ヨーロッパ全土から楽しい時を過ごすために、更にハンドボールをプレイするために、マスターズハンドボーラーが古い友人達と一緒に参加しました。大会は、5つのカテゴリーに分れ、延 45 チーム、参加選手数700 名が、4つの会場でプレイを楽しみました。





欧州マスターズハンドボール選手権の精神

（EMHC）は古いスポーツの友人を深め、互いに楽しい時を持つことです。欧州ハンドボール連盟は選手が自分の好きなスポーツをプレイしながら、競技性と交流の両面を組み合わせ、かつてのハンドボールプレイヤーに参加する可能性を与え、営利を求めないハンドボールイベントを提供することを目指して、2003 年から始まりました。

欧州マスターズハンドボール選手権の歴史（過去の開催国）

ウイーンで始まった大会は、欧州各国で毎年開催されています。

開催年と開催国	開催時期	参加数	参加選手	会場
2003 ウィーン／オーストリア	2003 年 8 月	28 チーム	500 名	4 コート
2005 グラノリェルス／スペイン	2005 年 3 月	26 チーム	470 名	3 コート
2006 ジュール／ハンガリー	2006 年 6 月	45 チーム	800 名	6 コート
2007 クラクフ／ポーランド	2007 年 6 月	46 チーム	―	4 コート
2008 マルメ／スウェーデン	2008 年 9 月	48 チーム	840 名	4 コート
2009 コレ／デンマーク	2009 年 6 月	36 チーム	600 名	4 コート
2010 ベルガ／スペイン	2010 年 6 月	52 チーム	900 名	4 コート
2011 リニャーノ／イタリア	2011 年 9 月	32 チーム	580 名	2 コート
2012 リュブリャナ／スロベニア	2012 年 6 月	42 チーム	780 名	4 コート
2013 ブリクセン／イタリア	2013 年 6 月	45 チーム	700 名	4 コート

大会のカテゴリ…マスターズに相応しい分け方

▶男性は 35 歳以上、45 歳以上、50 歳以上の 3 つのカテゴリー

▶女性は 33 歳以上、43 歳以上の 2 つのカテゴリー　　　合計 5 つのカテゴリー

大会の様子から







第5回チャレンジ・ディビジョン

【開催期間】

平成25年9月1日（日）～平成26年2月1日（土）

順位決定戦　平成25年2月22日（土）～23日（日）

【試合形式】

男子：A・Bブロック各6チームによる1回戦総当りのリーグ戦の後、最終順位決定戦

参加チーム

【男子・Aブロック】

東北福祉大学
（宮城県）

FST
（東京都）

トヨタ自動車
（愛知県）

HC春日井
（愛知県）

同朋クラブ
（愛知県）

大同大学
（愛知県）

【男子・Bブロック】

TOYAMA選抜
（富山県）

HONDA
（三重県）

HC・MKA奈良
（奈良県）

八光自動車工業
（大阪府）

OSAKA SELECTION
（大阪府）

HC和歌山
（和歌山県）

【男子・Aブロック】日程表

節	開催日	開催地	会場	対戦カード
1	10/19（土）	愛知県	トヨタ車体吉原体育館	14：00～　トヨタ自動車 × 同朋クラブ
2	10/26（土）	愛知県	トヨタ車体吉原体育館	14：00～　同朋クラブ × FST
	10/27（日）	愛知県	大同大学体育館	10：00～　大同大学 × FST
3	11/09（土）	愛知県	大同大学体育館	13：00～　トヨタ自動車 × HC春日井
				14：50～　大同大学 × 東北福祉大学
	11/10（日）	愛知県	大同大学体育館	11：00～　同朋クラブ × 東北福祉大学
				12：50～　大同大学 × HC春日井
4	11/30（土）	埼玉県	エイトアリーナ	13：00～　FST × HC春日井
				14：50～　東北福祉大学 × トヨタ自動車
	12/01（日）	東京都	新宿コズミック体育館	11：00～　東北福祉大学 × HC春日井
				12：50～　FST × トヨタ自動車
5	12/15（日）	愛知県	大同大学体育館	14：50～　大同大学 × 同朋クラブ
6	01/11（土）	愛知県	トヨタ車体吉原体育館	13：00～　HC春日井 × 同朋クラブ
				14：50～　トヨタ自動車 × 大同大学
7	01/18（土）	宮城県	フラップ大郷21	15：00～　東北福祉大学 × FST

【男子・Bブロック】日程表

節	開催日	開催地	会場	対戦カード
1	09/01（日）	兵庫県	神戸国際大学体育館	13：00～　八光自動車工業 × HC和歌山
				14：50～　HONDA × HC・MKA奈良
2	09/07（土）	富山県	富山市八尾スポーツアリーナ	15：00～　TOYAMA選抜 × HC和歌山
	09/08（日）	富山県	富山市八尾スポーツアリーナ	13：00～　HONDA × 八光自動車工業
				14：50～　TOYAMA選抜 × HC・MKA奈良
3	10/27（日）	和歌山県	和歌山ビッグウェーブ	13：00～　八光自動車工業 × OSAKASELECTION
				14：50～　HONDA × HC和歌山
4	11/16（土）	奈良県	桜井市芝運動公園総合体育館	13：00～　八光自動車工業 × TOYAMA選抜
				14：50～　OSAKASELECTION × HC・MKA奈良
5	12/15（日）	愛知県	大同大学体育館 ※Aブロックと併催	13：00～　HONDA × OSAKASELECTION
6	01/25（土）	兵庫県	神戸国際大学体育館	13：00～　HC・MKA奈良 × HC和歌山
				14：50～　HONDA × TOYAMA選抜
	01/26（日）	兵庫県	神戸国際大学体育館	11：00～　TOYAMA選抜 × OSAKASELECTION
				12：50～　八光自動車工業 × HC・MKA奈良
7	02/01（土）	大阪府	八尾市立総合体育館	10：00～　OSAKASELECTION × HC和歌山

第19回男子ジュニア世界選手権に参加して

国際審判員　檜﨑　潔

第19回男子ジュニア世界選手権が7月14日から28日までボスニア・ヘルツェゴヴィナにて行われ、ペアである池渕智一氏とともにレフェリーとして参加させていただきました。現地での様子やレフェリーミーティング等での指導された内容についてご報告させていただきます。

まず、この大会が行われたボスニア・ヘルツェゴヴィナはご存知の通り1996年まで内戦が続き、大きな被害を受けています。首都であるサラエボ市街地には今なお銃弾の痕が残る建物が多くあり、当時の戦闘の激しさを垣間見るとともに、改めて平和について考えさせられました。そのような中でも、人々の表情は明るく、美しく古い町並みの中にオープンカフェが立ち並び、過ごしやすい気候も相まってか、観光客も多く訪れていました。

IHFからノミネートされたメンバーは7月11日にサラエボに到着するようにとのことで、我々は7月10日に成田国際空港を出発し、イスタンブールを経由して翌11日にサラエボへ到着しました。翌12日の朝9時からレフェリーとテクニカルデレゲート（以下TD）へのミニコースが実施されました。今大会は運営をIHF・COC委員のフィリップ・バナ氏（FRA）が統括し、レフェリー部門についてはIHF・PRCメンバーのビヤンネ・ジャンセン氏がミーティングの進行や割り当てを含めて統括をされました。

ミニコースではまず、バナ氏から大会のスケジュールやルール等について説明があり、その後ジャンセン氏からレフェリーとTDに対しての指導がありました。1月にスペインで行われた男子世界選手権でのミニコースの資料を元に、主に7mスローの判定、罰則の判定、そしてポストでのシチュエーションでの判定について研修を行いました。その中で、7mスローの判定についてはDFプレイヤーとの最初の接触がゴールエリアの外なのか内側なのかをしっかり見極めることを強調されました。罰則については罰則を探すことがレフェリーの仕事ではない、イエローカードとダイレクトの2分間退場をしっかり区別すること、罰則のキーワードは『影響』（Effect）であるという指導でした。ポストの場面については、前述の罰則の指導とあわせて、ポストプレイヤーに対してよく起こる長い時間ホールディングし続ける（Long holding）DFはダイレクトの2分間退場であるということでした。このミニコースで指導された内容は、6月に東京で行われた全日本大会および日本リーグ担当レフェリー研修会で行われたものと同様の内容であり、日本協会審判部の指導は国際基準に沿って行われていることも実感することができました。ミニコースの最後にはテストについてのアナウンスがあり、結果が良くないレフェリーは大事な試合には割り当てないというコメントがあり、ルールテスト、シャトルランテスト（ビープテスト）の結果が割り当てにも影響する大切な要素であるということでした。ミニコース終了後、レフェリーとTDのルールテストが行われ、TDは各自で、レフェリーは各ペアで回答し、25問を約30分で回答するというものでした。

翌13日の午前中にはレフェリーに対して体力テストが行われました。我々IHFレフェリーは年に2回、アクティビティレポートの提出を義務づけられており、その中にはトレーニング内容や担当した試合はもちろん、BMI数値も記入します。シャトルランテストを始める前に、用意されていた体重計で体重を計り、BMI数値の確認をされました。これは今まで参加した世界選手権ではなかったことで、レフェリーのコンディショニングも今まで以上に重視しているのだと感じました。シャトルランテストは2グループに分かれて行われ、合格ラインである男性9.5ラウンド以上、女性8.5以上を全員がクリアしました。シャトルランテスト終了後にホテルへ戻り、11時30分からミーティングが行われ、昨日のルールテストと先ほどのシャトルランテストの結果が発表されました。ルールテストで5割を切っていたペア、BMIが30を超えているレフェリーには注意がなされ、改善するよう指導がありました。逆にルールテストでトップだったスロベニアペアとシャトルランテストでトップだった私にはお褒めの言葉を頂きました。また、リザーブレフェリーの割り当てがあった際の注意点として、レフェリーウェアを着てしっかり準備をしておくことと、試合中にスマートフォンやタブレット、PCを触っているのは良い姿ではないので気をつけるように言われました。

この大会は国内4カ所で各予選グループを実施したため、昼





食をとった後、Aグループのバニャ・ルカ、Bグループのルブスキーへ移動するグループはそれぞれバスに乗り、13時にホテルを出発しました。我々が移動したバニャ・ルカまでは約4時間という長い道のりでした。到着後は少し休み、夕食後にミーティングが行われ、このグループのリーダーであるドラガン・ナチェブスキー氏（MKD・EHF審判長）から話があり、このAグループは最もタフなグループの1つであるので、良いパフォーマンスをできるようにしっかり集中して準備をしてもらいたいとのことでした。

我々が滞在したバニャ・ルカはヘルツェゴヴィナ地方の首都機能を持ち、国内でもハンドボールが盛んな地方であるということでした。セルビア人が多く、政府関連の建物や街中にはセルビア国旗が掲げられており、内戦終了後も今なお続く複雑な政治的なものを感じました。しかしサラエボ同様、人々の表情は明るく、良い人たちばかりだったように思います。

このグループで試合をしたセルビアの試合は毎回超満員で、5000人収容の会場は立ち見客が必ず出ていました。また、関係の深いロシアの試合も応援が多く、我々が担当したセルビア対ロシアの試合も超満員で今まで経験したことのないような雰囲気でした。応援やブーイング、判定に対しての会場の反応などで笛の音が聞こえないこともあり、大変な試合ではありましたが、ヨーロッパ勢同士の試合をこのような雰囲気の中で担当することができ、大変楽しく、良い経験になりました。この試合を含めて予選リーグで我々は3試合を担当しました。レフェリーミーティングは毎朝行われ、前日の各試合からビデオクリップを作成したものを使用して研修・指導がされました。予選リーグは休日を挟んで7日間にわたって行われ、各グループ上位4チームが決勝トーナメントに進みました。どのグループも激しい順位争いがあり、結果的に下位になったチームも決して弱いわけではなく、この世代になると特に力が拮抗してくると感じました。しかし、結果的にアジア代表の3チームは全て下位になっています。ジュニア代表がアジアで出場権を得ることも大事ですが、予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントで戦える力をつけることが必要だと感じます。選手もレフェリーも国際舞台での経験は非常に重要であると同時に、ハンガリーでのユース世界選手権に参加する選手たちにはその経験を活かし、次のジュニア世界選手権に是非出場して上位進出を目指して欲しいと思います。日本はヨーロッパから見ればハンドボール先進国ではないと思われているように感じます。それはこれまでの各カテゴリー代表の世界選手権出場状況や結果を見てもそうですし、これまで我々が参加した7回の世界大会の割り当てを見ても、本当に大切な試合は数試合しか割り当てられていません。他国（特にヨーロッパ）のレフェリーの吹笛や指導されている内容を見ても大きな違いはないと感じていますが、やはり先入観を持たれていると感じています。このような状況を打破するためにはやはり代表チームの活躍が不可欠だと思います。代表チーム・選手が国際舞台で活躍でき、強い選手、強い代表チームを作るために我々レフェリーの役割は大きなものです。我々ペアも世界基準の判定を正しいハンドボール観の元でしていかなければならないと思っています。

今大会は予選リーグも含めて6試合を担当しました。最終的には7位決定戦のスイス対エジプトの試合でしたが、6試合を通して新たな課題も見つけることができ、今後の国際大会や国内での試合に向けてしっかり準備をしていきたいと思います。

終わりになりましたが、この大会に参加するにあたり、ご迷惑をおかけした職場の皆様をはじめ、各方面と連絡を取ってくださった日本協会事務局、藤井審判部長をはじめいつもご指導くださる皆様にこの場をお借りして感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

2013 未来をつなげ北部九州総体に参加して

佐賀県ハンドボール協会　亀川 政文・権藤 洋文

「吹きわたれ　若人の風　北部九州へ」のスローガンのもと、7月30日から8月4日までの6日間、全国高等学校総合体育大会が、佐賀県神埼市・基山町・三日月町・芦刈町・武雄市の6会場で行われました。佐賀県では6年ぶりの開催であり、前回の2007青春佐賀総体を思い起こしながら、地元スタッフとともに準備を進めてまいりました。また昨年参加させていただいた北信越かがやき総体での新潟県の運営の素晴らしさや審判団に対してのご配慮、大会を支えた地元の方々のご苦労・感謝の気持ちを思い浮かべながら、不安や緊張そして期待が入り混じった大会でした。事前に武智誠治審判長、尾崎浩祥副審判長から大会準備のアドバイスを受け、地元から参加するレフェリーペアの林奈緒美・貞包圭介審判員と大会期間中の審判団日程について打ち合わせを進めました。

7月28日の審判長・副審判長会議を受けて、7月29日午前10時から審判研修会が始まりました。武智審判長のもと、24ペアの審判団と6名の副審判長、越田義昭審判審査指導委員長が参加しました。競技規則試験後の自己紹介で、経験豊かなベテランレフェリーや各ブロックの有望な若手レフェリーの声を聴き、この大会を通して多くの刺激を受けることができると期待が膨らみました。日ごろから交流のある九州地区の審判団やこれまでの各種大会で親交のあった方々の姿を見て大変心強く感じました。研修会は映像資料をもとに、「接触プレーにおける判定」「ゲームを管理するための注意点」「申し合わせ事項」などを再確認しました。6月末の東京「味の素 NTC」で開催された全国大会担当者研修会での映像資料と合わせて、事前にこのような研修を受けることができ、判定基準の共有が得られたことで落ち着いて大会にのぞむことができました。

30日朝6時からレフェリーミーティングを行い、朝食後、7時30分から6会場へ輸送バスで移動し、いよいよ1回戦が始まりました。どの試合も高校生らしく熱く激しいものとなり、我々が担当した試合も得点差以上に白熱した内容でした。担当試合の後、審判長・副審判長からアドバイスを受け、同じ会場のレフェリー団からも意見をいただき、次の試合に備えました。今大会に参加したレフェリーの中には自分たちが担当した試合をビデオにとり、客観的に自分たちのレフェリングを分析しているペアもいました。謙虚に自己研鑽を積まれている姿勢に感銘を受け、あらためて「選手のために審判がいる」という原点を再認識できました。

全試合終了後、会場ごとにミーティング、宿舎に戻って19時半から全体ミーティングを行いました。ミーティングでは、会場・オフィシャル・判定などについて、各会場の担当審判員が報告し、全体での共通理解を図りました。その後、かなり遅めの夕食、審判着の洗濯をし、次の日に備えました。

2回戦、3回戦と進む中で、各会場のオフィシャルやモップ係の高校生もスムーズな動きが見られるようになりました。また、大会サポート校の地元高校の野球部や情報処理部、放送部などの生徒が補助員としてハンドボールの試合を間近に見て、「ハンドボールは面白い」「あの選手のシュートは凄い」と口にしていました。準々決勝、準決勝は会場数も少なくなり、他会場から補助員生徒が集まってきました。大会運営のかたわら同年代のトップチームのプレーを観戦することができ、彼らにとって大きな宝となったようです。全国のトップレフェリーの試合運営を見学することができた地元の若手審判員にとっても大きな財産となりました。

最終日、決勝戦が神埼中央公園体育館で行われました。男女とも白熱したスピード感のある好ゲームであり、男子は興南高校(沖縄)、女子は高松商業高校（香川）が優勝し、大会の幕を閉じました。

佐賀で全国大会を行う、非日常の6日間でした。全国から集われた選手・役員の方々、そしてて審判団・TDの方々と緊張感のある真剣勝負の6日間は、これからの日常を豊かにしてくれる充実した日々でした。そして、大会を終えて地元に残されたのは、質の高い試合の記憶と、大会を通じて再認識した人の支え合いのネットワークでした。



最後になりますが、この大会を支え、盛り上げていただいた地域の皆様、保護者の皆様、そして地元の高校生補助員の皆様および地元高校の先生方に感謝したいと思います。大会最終日まで、炎天下および豪雨の中、駐車場係りとして頑張ってくれた地元高校生の献身に心から感謝申し上げます。

スコアールーム①

第26回全国小学生大会

開催期日：2013年8月1日(木)～4日(日)
会　場：京都府・京田辺市中央体育館ほか

【男　子】

▼予選男子Aブロック

香川町HBスポ少オリーブくん	21−13	江東HBクラブ
日岡HBスポ少	24−11	和歌山HB教室
香川町HBスポ少オリーブくん	17−11	日岡HBスポ少
江東HBクラブ	20−14	和歌山HB教室

【順位】①香川町HBスポ少オリーブくん(香川)②日岡HBスポ少(大分)③江東HBクラブ(東京)④和歌山HB教室(和歌山)

▼予選男子Bブロック

流山HBC	14−13	霧島ジュニアHBC
流山HBC	21−10	安堵の郷HBC
霧島ジュニアHBC	20−20	安堵の郷HBC

【順位】①流山HBC(千葉)②霧島ジュニアHBC(鹿児島)③安堵の郷HBC(奈良)

▼予選男子Cブロック

貝塚バーディーズ	18−18	スポ少水海道HBC
貝塚バーディーズ	15−8	小松ジュニアHBC
スポ少水海道HBC	12−11	小松ジュニアHBC

【順位】①貝塚バーディーズ(大阪)②スポ少水海道HBC(茨城)③小松ジュニアHBC(石川)

▼予選男子Dブロック

総社クラブジュニア	13−7	境港マリンバード
東海HBS	12−6	山梨HBスポ少
東海HBS	15−8	総社クラブジュニア
境港マリンバード	12−11	山梨HBスポ少

【順位】①東海HBS(愛知)②総社クラブジュニア(岡山)③境港マリンバード(鳥取)④山梨HBスポ少(山梨)

▼予選男子Eブロック

LHC静岡HBA	22−20	小島小学校HBC
桃園小学校HBC	25−4	高知JHC
桃園小学校HBC	14−7	LHC静岡HBA
小島小学校HBC	25−8	高知JHC

【順位】①桃園小学校HBC(京都)②LHC静岡HBA(静岡)③小島小学校HBC(長崎)④高知JHC

▼予選男子Fブロック

神森小学校HBC	18−8	三郷HBC
V-POWERS岩国HBC	23−7	潮HBC
神森小学校HBC	19−11	V-POWERS岩国HBC
三郷HBC	13−6	潮HBC

【順位】①神森小学校HBC(沖縄)②V-POWERS岩国HBC(山口)③三郷HBC(埼玉)④潮HBC(北海道)

▼予選男子Gブロック

明石ジュニア	20−13	南林間HBC
安居ブルーサンダースポ少	25−7	愛媛ジュニアーズ
安居ブルーサンダースポ少	16−8	明石ジュニア
南林間HBC	14−14	愛媛ジュニアーズ

【順位】①安居ブルーサンダースポ少(福井)②明石ジュニア(兵庫)③南林間HBC(神奈川)、愛媛ジュニアーズ(愛媛)

▼予選男子Hブロック

岐阜MHC	15−15	松井ヶ丘小学校HBC
岐阜MHC	22−8	延岡東HBC
松井ヶ丘小学校HBC	20−12	延岡東HBC

【順位】①岐阜MHC(岐阜)②松井ヶ丘小学校HBC(開催地)③延岡東HBC(宮崎)

▼予選男子Iブロック

玉名町小学校	31−13	富岡イーグルス
玉名町小学校	32−2	ジュニアレイカーズ
富岡イーグルス	17−11	ジュニアレイカーズ

【順位】①玉名町小学校(熊本)②富岡イーグルス(群馬)③ジュニアレイカーズ(滋賀)

▼予選男子Jブロック

安芸高田HBC	21−12	氷見HBジュニア
かすやブルーガッツ	15−6	笹川HBC
かすやブルーガッツ	16−15 (3−0 延長 2−4)	安芸高田HBC
氷見HBジュニア	13−9	笹川HBC

【順位】①かすやブルーガッツ(福岡)②安芸高田HBC(広島)③氷見HBジュニア(富山)④笹川HBC(三重)

▼1回戦

流山HBC	17−9	貝塚バーディーズ
玉名町小学校	13−11	岐阜MHC

▼準々決勝

香川町HBスポ少オリーブくん	19−16	流山HBC
東海HBS	11−7	桃園小学校HBC
神森小学校HBC	15−12	安居ブルーサンダースポ少
玉名町小学校	21−14	かすやブルーガッツ

▼準決勝

東海HBS	22−14	香川町HBスポ少オリーブくん
神森小学校HBC	19−12	玉名町小学校

▼3位決定戦

玉名町小学校	17−16	香川町HBスポ少オリーブくん

▼決勝戦

東海HBS	19−15	神森小学校HBC

【女　子】

▼予選女子aブロック

湊チャフリーズ	17−16	笹川HBC
霧島ジュニアHBC	18−6	塩江HBCスポ少
湊チャフリーズ	7−6	霧島ジュニアHBC
笹川HBC	28−9	塩江HBCスポ少

【順位】①湊チャフリーズ(福井)②霧島ジュニアHBC(鹿児島)③塩江HBCスポ少(香川)④笹川HBC(三重)

▼予選女子bブロック

岸和田フレンズ	14−10	広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ
羽島HBC	10−8	岸和田フレンズ
広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ	8−7	羽島HBC

【順位】①岸和田フレンズ(大阪)②羽島HBC(岐阜)③広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ(広島)

▼予選女子cブロック

三松小HBスポ少	18−17	東久留米HBC
三松小HBスポ少	26−5	真弓クラブ
東久留米HBC	16−7	真弓クラブ

【順位】①三松小HBスポ少(宮崎)②東久留米HBC(東京)③真弓クラブ(奈良)

▼予選女子dブロック

スポ少守谷クラブ	20−5	LITTLE GUTS
十三ジュニア女子HBC	25−3	高知JHC
スポ少守谷クラブ	18−15	十三ジュニア女子HBC
LITTLE GUTS	17−4	高知JHC

【順位】①スポ少守谷クラブ(茨城)②十三ジュニア女子HBC(富山)③LITTLE GUTS(山口)④高知JHC(高知)

▼予選女子eブロック

薪小学校HBC	16−5	富岡ラビッツ
小島小学校HBC	20−8	かやぎHBC
薪小学校HBC	18−12	小島小学校HBC
富岡ラビッツ	20−8	かやぎHBC

【順位】①薪小学校HBC(京都)②小島小学校HBC(長崎)③富岡ラビッツ(群馬)④かやぎHBC(北海道)

▼予選女子fブロック

日岡HBスポ少	25−8	岩出HB教室
南林間HBC	9−6	笹島HBC
日岡HBスポ少	10−9	南林間HBC
笹島HBC	17−5	岩出HB教室

【順位】①日岡HBスポ少(大分)②南林間HBC(神奈川)③笹島HBC(愛知)④岩出HB教室(和歌山)

▼予選女子gブロック

三郷HBC	13−12	桃園小学校HBC
HC春吉Jr	23−10	愛媛ジュニアーズ
三郷HBC	12−11	HC春吉Jr
桃園小学校HBC	21−11	愛媛ジュニアーズ

【順位】①三郷HBC(埼玉)②HC春吉Jr(福岡)③桃園小学校HBC(開催地)④愛媛ジュニアーズ(愛媛)

▼予選女子hブロック

総社クラブジュニア	14−10	日吉台バード
玉名町小学校	23−3	川西コジマーズ
玉名町小学校	12−3	総社クラブジュニア
日吉台バード	15−13	川西コジマーズ

【順位】①玉名町小学校(熊本)②総社クラブジュニア(岡山)③日吉台バード(千葉)④川西コジマーズ(兵庫)

▼予選女子iブロック

仲西小HB	28−4	境港マリンバード
小松ジュニアHBC	15−5	塩山HBスポ小
仲西小HB	11−5	小松ジュニアHBC
塩山HBスポ小	13−12	境港マリンバード

【順位】①仲西小HB(沖縄)②小松ジュニアHBC(石川)③塩山HBスポ小(山梨)④境港マリンバード(鳥取)

▼1回戦

三松小HBスポ少	13−5	岸和田フレンズ

▼準々決勝

三松小HBスポ少	14−12	湊チャフリーズ
薪小学校HBC	11−10	スポ少守谷クラブ
日岡HBスポ少	15−12	三郷HBC
玉名町小学校	8−7	仲西小HB

▼準決勝

三松小HBスポ少	13−9	薪小学校HBC
玉名町小学校	19−8	日岡HBスポ少

▼3位決定戦

薪小学校HBC	12−9	日岡HBスポ少

▼決勝戦

玉名町小学校	16−5	三松小HBスポ少

スコアールーム②

第21回全日本マスターズ大会

開催期日：2013年8月2日(金)～4日(日)
会　場：岩手県・花巻総合体育館ほか

【男子交流型】

▼あブロック

三景ＯＢ	13－8	ＬＢＣ葵エルム
三景ＯＢ	19－14	七戸ユニオン
三景ＯＢ	20－10	ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ａ
ＬＢＣ葵エルム	19－9	七戸ユニオン
ＬＢＣ葵エルム	11－7	ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ａ
七戸ユニオン	12－11	ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ａ

▼いブロック

東京都社会人ハンドボール連盟	14－10	山王クラブＨＣ
東京都社会人ハンドボール連盟	14－12	ＨＣみやびマスターズ
東京都社会人ハンドボール連盟	16－10	神楽坂シニア
山王クラブＨＣ	14－8	ＨＣみやびマスターズ
山王クラブＨＣ	15－9	神楽坂シニア
ＨＣみやびマスターズ	8－7	神楽坂シニア

▼うブロック

ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ｂ	14－8	海自桜錨会
ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ｂ	15－8	花巻桜雲会
ＨＣ名古屋ＡＦＴ・Ｂ	17－6	秋桜柏(コスモスカシワ)
海自桜錨会	14－13	花巻桜雲会
海自桜錨会	13－9	秋桜柏(コスモスカシワ)
花巻桜雲会	13－11	秋桜柏(コスモスカシワ)

▼えブロック

拝島ブルーウッド	12－8	ガンバ花クラ
拝島ブルーウッド	18－5	横浜平沼マスターズ
拝島ブルーウッド	17－7	豊橋マスターズ
ガンバ花クラ	16－14	横浜平沼マスターズ
ガンバ花クラ	25－5	豊橋マスターズ
横浜平沼マスターズ	19－5	豊橋マスターズ

▼おブロック

松門会	13－13	４６Ｇ会
松門会	18－17	Ｕ－60スペイン選抜
松門会	15－13	岩手フェザント
４６Ｇ会	12－10	Ｕ－60スペイン選抜
４６Ｇ会	11－11	岩手フェザント
Ｕ－60スペイン選抜	12－11	岩手フェザント

▼かブロック

蔵前如水会	14－8	天王寺高校マスターズ
蔵前如水会	16－5	川崎ハンドボールマスターズクラブ
蔵前如水会	15－11	湯沢クラブＯＢ
天王寺高校マスターズ	9－1	川崎ハンドボールマスターズクラブ
天王寺高校マスターズ	15－10	湯沢クラブＯＢ
川崎ハンドボールマスターズクラブ	15－11	湯沢クラブＯＢ

▼きブロック

小金クラブ	14－11	兵庫選抜
小金クラブ	25－5	盛岡ＦＵＷＡＫＵ
小金クラブ	14－7	駒沢クラブ
兵庫選抜	22－6	盛岡ＦＵＷＡＫＵ
兵庫選抜	19－5	駒沢クラブ
盛岡ＦＵＷＡＫＵ	13－11	駒沢クラブ

【女子交流型】

▼くブロック

台湾台北女子	13－8	徳山クラブＡＮＥ
台湾台北女子	18－4	フェニーチェ
台湾台北女子	12－2	ＨＣフラワーロール
台湾台北女子	14－10	瀬戸内レディース
徳山クラブＡＮＥ	11－11	フェニーチェ
徳山クラブＡＮＥ	15－6	ＨＣフラワーロール
徳山クラブＡＮＥ	9－5	瀬戸内レディース
フェニーチェ	12－12	ＨＣフラワーロール
フェニーチェ	13－11	瀬戸内レディース
ＨＣフラワーロール	9－9	瀬戸内レディース

▼けブロック

ギャロップレディースクラブ	13－11	HC名古屋／中部ドリームズ
モッピークラブ	11－8	ギャロップレディースクラブ
ギャロップレディースクラブ	11－5	武蔵野クラブ
ギャロップレディースクラブ	10－6	ＢＡＢＡＲ’Ｓ
モッピークラブ	16－6	HC名古屋／中部ドリームズ
HC名古屋／中部ドリームズ	13－4	武蔵野クラブ
HC名古屋／中部ドリームズ	10－8	ＢＡＢＡＲ’Ｓ
武蔵野クラブ	8－5	モッピークラブ
ＢＡＢＡＲ’Ｓ	10－8	モッピークラブ
武蔵野クラブ	12－9	ＢＡＢＡＲ’Ｓ

【男子順位決定型】

▼１回戦

ＧＨＢＰＡＲＥＳ	15－14	ＧＧ’Ｓ
ＧＧ北海道	18－12	静岡マスターズ
ＨＣ群馬サファリ	15－12	神楽坂フェニックス
オールドフェイス	19－15	チーム大阪

▼敗者交流戦

ＧＧ’Ｓ	18－7	静岡マスターズ
チーム大阪	24－10	神楽坂フェニックス
神楽坂フェニックス	13－9	静岡マスターズ
チーム大阪	17－13	ＧＧ’Ｓ

▼準決勝

ＧＨＢＰＡＲＥＳ	13－6	ＧＧ北海道
オールドフェイス	16－14	ＨＣ群馬サファリ

▼３位決定戦

ＧＧ北海道	17－8	ＨＣ群馬サファリ

▼決勝

ＧＨＢＰＡＲＥＳ	**16－12**	**オールドフェイス**

【女子順位決定型】

▼決勝リーグ

御座姐(ゴザネエ)	8－7	ＮＥＷフェイス
御座姐(ゴザネエ)	21－8	岩手三花
御座姐(ゴザネエ)	16－6	かよちゃんず
御座姐(ゴザネエ)	21－7	マミーズ
ＮＥＷフェイス	13－12	岩手三花
ＮＥＷフェイス	14－8	かよちゃんず
ＮＥＷフェイス	13－6	マミーズ
岩手三花	12－12	かよちゃんず
岩手三花	16－11	マミーズ
かよちゃんず	14－8	マミーズ

【順位】①御座姐(ゴザネエ)②ＮＥＷフェイス③岩手三花④かよちゃんず⑤マミーズ

スコアールーム③

第18回ジャパンオープントーナメント

開催期日：2013年8月11日(日)～14日(水)
会　場：長崎県・佐世保市体育文化館ほか

【男子】

▼１回戦

ＨＯＮＤＡ(三重県)	27－21	埼玉教員クラブ(埼玉県)
ＨＣ彦根(滋賀県)	22－19	北送会(開催地)
ＨＣ岩手(岩手県)	34－22	日新製鋼(広島県)
ＦＯＧ(千葉県)	36－21	那覇西クラブ(沖縄県)
ＨＣ岡山(岡山県)	30－24	大同クラブ(愛知県)
香川クラブ(香川県)	25－21	ＨＣ同志社(京都府)
宮崎フェニックス(宮崎県)	33－29	氷見クラブ(富山県)
ＦＳＴ(東京都)	47－23	チーム楽南(秋田県)
ＨＣ岐阜(岐阜県)	39－22	山形新球会ハンドボールクラブ(山形県)
ボンチフェローズ(大阪府)	29－21	小松クラブ(石川県)
Ｂ．Ｉ．Ｃ(沖縄県)	28－25	リリオ神奈川(神奈川県)
下松クラブ(山口県)	35－31	チーム群馬(群馬県)
熊本教員クラブ(熊本県)	33－20	栃の葉クラブ(栃木県)
ＥＨＣ(愛媛県)	33－23	北志クラブ(福井県)
ＨＣ和歌山(和歌山県)	44－18	帝京クラブ(福島県)
長崎社中(長崎県)	47－15	函工クラブ(北海道)

▼２回戦

ＨＯＮＤＡ	27－23	ＨＣ彦根
ＦＯＧ	33－23	ＨＣ岩手
香川クラブ	28－21	ＨＣ岡山
宮崎フェニックス	35－33	ＦＳＴ
ＨＣ岐阜	27－25	ボンチフェローズ
Ｂ．Ｉ．Ｃ	31－29	下松クラブ
熊本教員クラブ	25－23	ＥＨＣ
長崎社中	33－17	ＨＣ和歌山

▼準々決勝

ＨＯＮＤＡ	23－21	ＦＯＧ
香川クラブ	26－19	宮崎フェニックス
ＨＣ岐阜	34－18	Ｂ．Ｉ．Ｃ
長崎社中	41－16	熊本教員クラブ

▼準決勝

ＨＯＮＤＡ	19(11－8、8－8)16	香川クラブ
長崎社中	31(17－8、14－11)19	ＨＣ岐阜

▼３位決定戦

ＨＣ岐阜	30(13－14、17－15)29	香川クラブ

▼決勝

長崎社中	**25(10－9、15－9)18**	**ＨＯＮＤＡ**

【女子】

▼１回戦

香川銀行Ｔ・Ｈ(香川県)	30－13	ＪＪ ＧＡＮＧ(福井県)
サンライズハンドボールクラブ(群馬県)	37－30	レキオクラブ(沖縄県)
ＨＣ和歌山(和歌山県)	42－16	HC東京VENUS(東京都)
ＨＣ岡山(岡山県)	28－18	BIG RIVER(開催地)
ナデシコクラブ(奈良県)	37－27	かながわガビアーノ(神奈川県)
ＨＣ長崎(長崎県)	31－13	愛姫クラブ(愛媛県)
コスモスビッキーズ(大分県)	34－10	北海道ＨＣ(北海道)
ＭＭＣ(愛知県)	29－19	梅の家(東京都)

▼準々決勝

香川銀行Ｔ・Ｈ	39－17	サンライズハンドボールクラブ
ＨＣ和歌山	34－20	ＨＣ岡山
ナデシコクラブ	27－25	ＨＣ長崎
コスモスビッキーズ	26－18	ＭＭＣ

▼準決勝

香川銀行Ｔ・Ｈ	34(21－8、13－8)16	ＨＣ和歌山
ナデシコクラブ	29(16－18、13－8)26	コスモスビッキーズ

▼３位決定戦

ＨＣ和歌山	26(7－7、19－11)18	コスモスビッキーズ

▼決勝

香川銀行Ｔ・Ｈ	**36(19－14、17－12)26**	**ナデシコクラブ**

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】佐藤紘一【宮　城】大河原浩気【埼　玉】松本隆栄、岡部克則、西山逸成【東　京】野島康嗣、佐藤佳子【山　梨】栗原富貴子【愛　知】小林美夏、笹野邦雄、宮崎奈央、山下悟史【岐　阜】中島明美【大　阪】久保幸子、白鳥貴子、望月滋乃、舟崎智芳【兵　庫】柿木國夫【広　島】両徳良樹【福　岡】下田昭弘【佐　賀】久保田秀光

【10月の行事予定】

【会議】
10月２日(水)　全国理事長会
10月12日(土)　本部長会議

【大会】
10月３日(木)～７日(日)
第68回国民体育大会
（東京都・墨田区総合体育館ほか）
10月10日(木)～15日(火)
第17回日韓スポーツ交流
（受入・女子／愛知県名古屋市予定）
10月19日(土)～20日(日)
第11回車椅子競技大会（徳島県予定）

※お詫びと訂正
前号（2013年8・9月合併号）の36頁に掲載いたしました「三協立山株式会社 三協アルミ社」の広告原稿が、編集段階で誤って印刷してしまいました。
関係の皆様にはご迷惑をおかけいたしまして誠に申し訳ございませんでした。
お詫びして訂正させていただきます。

HAND BALL CONTENTS Oct.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics®

sound mind, sound body

うまくなりたいと思ったら、
言い訳しないことだ。

BETTER YOUR BEST
WITH ASICS.COM

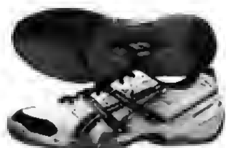


asics
TOKYO 2020
オフィシャルパートナー
(スポーツ用品)

©JHA2012年ハンドボール日本代表

グリップ性に優れたハイレスポンスモデル。

GEL-DOMAIN THH530
¥11,550(本体 ¥11,000)



ホワイト×ブラック(0190)



レッド×ブラック(2390)



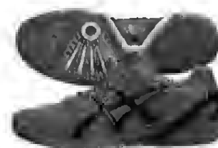
内側/レッド×ブラック(2390)

安定性とフィット性が融合したハイスペックモデル。

GELBLAST 4 THH528
¥13,440(本体 ¥12,800)



ブラック×ネオンオレンジ(9030)



フラッシュオレンジ×ブラック(3090)

●表示価格はすべて消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、0120-068-806 (携帯・PHSからもおかけいただけます) asics.com



（公財）日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五三八号

平成二十五年九月二十六日印刷
平成二十五年十月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 〇三ー三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円